

JICA 関係者限定資料

ヴェネズエラ

任国情報

1998年

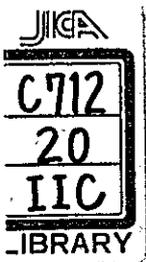
JICA LIBRARY



J 1150751 [4]

国際協力事業団

国際協力総合研修所



はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家などのJICA関係者に、赴任国での生活上必要な情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様から多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も本書の内容を一層充実させ、常に新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

なお、本書に記載された内容は、当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様の執筆を中心にまとめたものであり、国際協力事業団の公式見解ではないことを付記いたします。

平成11年3月

国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1150751 [4]

目 次

I	概 況	i
II	生活事情	1
1.	食生活	1
2.	衣 料	7
3.	住 宅	9
4.	医 療	13
5.	教 育	20
6.	家庭の使用人	24
7.	交通事情	25
8.	通 信	30
9.	マスコミ	33
10.	教養、娯楽、趣味、スポーツ	35
11.	その他のサービス	43
12.	観 光	44
13.	治安、緊急時の心得	49
14.	出入国手続および帰国手続	51
15.	私財の輸送、引き取り、購入	53
16.	社 交	55
17.	任国官公庁	57
18.	在外日本関係機関など	60
19.	地方都市	60

I 概況

表-1：ヴェネズエラ概況

正式国名	(和文) ヴェネズエラ共和国 (英文) Republic of Venezuela
独立年月日 旧宗主国	1811年7月5日 スペイン
政体	立憲共和制
元首の名称	ウゴ・チャベス大統領 (1999年2月就任) 任期5年
位置・面積	北緯0度45分~12度12分 西経59度45分~73度11分 912千平方キロメートル (注1)
首都	カラカス
総人口	22.3百万人 (1996年) (注2)
民族	白人 (22%)、黒人 (10%)、インディオ (2%)、混血 (66%)
公用語	スペイン語
宗教	カトリック (89%)、プロテスタント (2%)
暦	<p><日本との時差> -13時間</p> <p><祝祭日> (1998年) (注2)</p> <p>1月1日 新年</p> <p>2月15、16日 カーニバル</p> <p>3月10日 (La Guairaのみ)</p> <p>4月2~5日 イースター</p> <p>4月19日 独立宣言の日</p> <p>5月3日 メーデー</p> <p>6月24日 カラボボ戦勝記念日</p> <p>7月5日 独立記念日</p> <p>7月24日 ポリバル生誕記念日及びマラカイボ戦勝記念日</p> <p>9月4日 公務員の日</p> <p>10月12日 大陸発見記念日</p> <p>10月24日 (マラカイボのみ)</p> <p>12月24、25日 クリスマス</p> <p>12月31日 大晦日</p> <p>この他、銀行及び保険会社の休業日は1月6日 (公現祭)、3月19日 (聖ヨセフの日)、5月13日 (昇天祭)、6月29日 (SS Peter and Paul)、8月15日 (マリアの被昇天祭)、11月1日 (万聖節)、12月8日 (無原罪懐胎) である。</p>

出所 (注1) World Development Report 1997 The World Bank

(注2) The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications

1. 国土の概要

面積は 912 千平方キロメートル（表-1 参照）で、カリブ海に面する南米大陸の北端にあり、カリブ海には 200 余の島がある。カリブ海の島を含めると北緯 0 度 45 分～12 度 12 分、西経 59 度 45 分～73 度 11 分に位置しており、東はガイアナ、西はコロンビア、南はブラジルに接している。西部にはアンデス山脈、北部海岸線にはラ・コスタ山脈、南部には国土の約半分を占めるガイアナ山塊がある。中央部には肥沃な大平原があり、南米第 3 の大河のオリノコ河が横断している。一方、北西部のマラカイボ湖を中心とした低地帯に油田が集中している。

（参考文献）

【ラテン・アメリカ事典】 1989 ラテン・アメリカ協会
World Development Report 1997 The World Bank
【海外生活の手引き 南米編 I】 1998 世界の動き社

2. 気候

熱帯圏にあるが、土地の高低でかなり気候は異なっている。800 メートルまでの熱帯性気候、800～1,500 メートルまでの亜熱帯性気候、1,500～2,200 メートルまでの温帯性気候、2,200～3,000 メートルまでの寒帯性気候に加え、それ以上の高度になるとパラモ(3,000～4,700 メートル)と呼ばれる高山気候へと変化し、4,700 メートル以上は万年雪に覆われている（数値は外務省資料、1991）。

（参考文献）

「ヴェネズエラ共和国概観」 1991 外務省

3. 人口

1996 年の人口は 2,230 万人である（Europa Publication 資料、1998）。

1990 年の調査による主要都市人口は、首都カラカス 3,435,795 人、マラカイボ 1,400,643 人、バレンシア 1,274,354 人、マラカイ 956,656 人、バルキシメト 787,359 人である（数値は Europa Publication 資料、1998）。

（参考文献）

The Europa World Yearbook 1997 Europa Publications
World Development Report 1997 The World Bank

4. 略史

表-2：ヴェネズエラ略年表

年	出来事
1498年	コロンブスが到着。
1499年	アロンソ・デ・オヘーダの率いる遠征隊が到着。ヴェネズエラ（小ヴェネチア）と命名。
1811年	スペインより独立を宣言。
1813年	シモン・ボリーバル「解放者」として大統領に就任。
1819年	グラン・コロンビア共和国に合併。
1830年	同共和国が分裂し、コロンビア、エクアドルとともに独立しヴェネズエラ共和国となる。ホセ・アントニオ・パエスが初代大統領に就任。
1831～35年	パエス大統領の政権。カラカスが首都になる。
1839年	パエス、大統領に再選。
1843～47年	カルロス・スブレテ将軍の政権。
1847～51年	ホセ・タデオ・モナガス政権。
1851～55年	ホセ・グレゴリオ・モナガス政権。
1855年	タデオ・モナガス、再び独裁権力を掌握。
1858年	バレンシアのフリアン・カストロ将軍がカラカスに進撃し政権を掌握。タデオ・モナガス大統領、亡命。
1859年	エセキエル・サモラ将軍の軍がファルコン州に上陸し、カストロ将軍は辞任。内戦始まる。
1863年	ファルコン将軍の大統領就任で内戦終結。
1864年	新憲法制定。共和国をヴェネズエラ合衆国に改名。
1868年	ファルコン大統領が追放され、再び内戦。
1870年	アントニオ・グスマン・ブランコ将軍がカラカスを占領。以後約20年間実権を掌握。
1884～86年	ホアキン・グレスポ政権。
1886～87年	グスマン・ブランコ、再び独裁。
1888年	ファン・パブロ・ロハス大統領就任。
1890年	ライムンド・アンドゥエサ・パラシオス大統領就任。
1892～98年	ホアキン・グレスポがアンドゥエサを追放して大統領になる。後に暗殺される。
1899～1908年	シプリアノ・カストロ将軍が中央政府に宣戦を布告し、カラカスに進軍して、以後タチラ州出身者とともに独裁政権樹立。
1908年	カストロ大統領外遊中に、ファン・ピセンテ・ゴメス副大統領（将がクーデターで政権掌握。
1909～35年	ピセンテ・ゴメスの長期独裁政権。この間、22年にマラカイボ湖で石油発見。石油開発始まる。ゴメスは35年12月に死去。
1936～41年	ロペス・コントレーラス大統領（将軍）の政権。
1941～45年	イサイアス・メディナ大統領（将軍）の政権。

次ページへ続く。

年	出来事
1945年	ベレス・ヒメネスら軍の青年将校のクーデター。民主行動党のロムロ・ベタンクールが革命評議会議長に就任。
1947年	ロムロ・ガジェーゴス（民主行動党）が大統領就任。
1948年	軍のクーデター。デルガド・チャルバウド大佐、ベレス・ヒメネス大佐、ジョベラ大佐による軍事評議会政権。
1950年	デルガド・チャルバウド大佐、暗殺。
1952～58年	ベレス・ヒメネスの独裁政権。
1958年	1月23日にベレス・ヒメネスに対する反乱。軍人、民間人による軍民評議会が選挙まで政権を担当。ヴェネズエラ民主主義の始まりを記念する事件。
1959～64年	ロムロ・ベタンクール政権（民主行動党）。
1964～69年	ラウル・レオニ政権（民主行動党）。
1969～74年	ラファエル・カルデラ政権（キリスト教社会党）。
1974～79年	カルロス・アンドレス・ペレス政権（民主行動党）。
1979～84年	ルイス・エレラ・カンピンス政権（キリスト教社会党）。
1984～89年	ハイメ・ルシンチ政権（民主行動党）。
1989～1993年	第2次カルロス・アンドレス・ペレス政権（民主行動党）。
1989年	2月、物価上昇に端を発したカラカスでの暴動。
1992年	2月、軍の一部によるクーデター未遂事件。 11月、軍の一部によるクーデター未遂事件。
1993年12月	大統領選挙、国会議員選挙。
1994年2月	ラファエル・カルデラ元大統領、新大統領に就任。
1999年2月	1992年の軍反乱事件に失敗したウゴ・チャベス元陸軍中佐が大統領就任。

出所 「ヴェネズエラ共和国概観」 1991 外務省
 【アピック・カントリー情報 中南米編】 1992.5.15 国際協力推進協会
 「日本経済新聞」 1992年11月28日 日本経済新聞社
 【世界年鑑】 1994 1999 共同通信社
 Country Report:Venezuela 2nd quarter 1994 EIU

5. 民族

国勢調査に民族あるいは人種の項目はないので正確な構成は不明であるが、1981年の人種構成は、メスティーソと呼ばれる混血66%、白人22%、黒人10%、先住民2%と推定されている。一般に地方の海岸部では黒人の比率が平均より高く、カラカスでは白人の比率が高い（数値は共同通信社資料資料、1999）。

（参考文献）

Country Profile:Venezuela 1991-92 1991 EIU

「ヴェネズエラ共和国概観」 1991 外務省

「世界年鑑」1999 共同通信社

6. 言語

公用語はスペイン語であるが、イタリア人、ドイツ人などの移住者の間では各々の母国語も使われている。英語は主要都市のホテル、政府関係者の一部、主要民間企業の一部社員などの間でのみ通用する。また奥地の原住民の中にはスペイン語を解さない種族も若干ながら存在する。

(参考文献)

『ラテン・アメリカ事典』 1989 ラテン・アメリカ協会
『ヴェネズエラ共和国概観』 1991 外務省

7. 宗教

信教の自由は憲法で保証されている。国民の大部分はローマ・カトリック教の信者であるが、プロテスタント、ユダヤ教の信者も若干存在する。

(参考文献)

『ラテン・アメリカ事典』 1989 ラテン・アメリカ協会

8. 文化

基本的に文化はイベリア半島の影響が強い。しかし、石油を中心とする経済関係、地理的位置から米国からの文化的影響が強く、近年あらゆる面でアメリカナイゼーションが進んでいる。都会では米国風の生活が行われているが、地方の農民、下層階級の生活は、都会では想像し得ない生活である。オリノコ河上流地域に住むインディオの中には今なお裸の全く原始的生活を行っているものもあり、またスリア州に住むグアヒラ族の女性は独特の化粧と衣類を守り続けている。伝統民族音楽としては、カリブ海特有の軽快な音楽が聞かれる。民族衣装はキリキリと呼ばれる、基本的には白色の詰めえりの服がある。代表的民族舞踊には、ホロボと称するものがある。

(参考文献)

『ラテン・アメリカ事典』 1989 ラテン・アメリカ協会
『ヴェネズエラ共和国概観』 1991 外務省

9. マス・メディア

(1) 新聞

首都では日刊紙として Ultimas Noticias (10万部)、Meridiano (10万部)、El Mundo (4万部)、El Nacional (10万部) があり、地方では、Panorama (12万部)、El Sigro (75,000部)、El Carabobeno (8万部) がある(数値は Europa Publication 資料、1998)。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications

(2) 放送

1995年現在、国内で1000万人のラジオ受信者、370万人のテレビ受信者がいる (Europa Publications 資料、1998)。ラジオは、国営放送の他約300局がある。テレビは全国ネット4局 (国営1、民放3) がある (NHK 出版資料、1998)。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications

「データブック世界の放送 1999」 1999 NHK 出版

表-3: 経済指標 [ヴェネズエラ]

主要経済指標の		(1995)	(1996)	(1997)	
推移	GDP (十億ボリバル) (注1)	13,662.3	29,333.0	42,744.5	
	一人当たりGNP (ドル) (注2)	3,020	N.A.	3,450	
	実質GDP成長率 (%) (注4)	3.4	-1.6	5.9	
	消費者物価上昇率 (%) (注4)	59.9	99.9	50.0	
	失業率*1 (%) (注1)	10.3	N.A.	N.A.	
	貿易収支 (百万ドル)	7,013	13,756	11,592	
	輸出額 (fob)	19,082	23,693	23,966	
	輸入額 (fob) (注1)	12,069	9,937	12,374	
	主要輸出入相手国 (注4)	輸出 (1997年)		米国 (56.7%)	
		輸入 (1997年)		米国 (53.4%)	
	経常収支 (百万ドル) (注1)	2,014	8,824	5,999	
	対外債務残高 (百万ドル) (注5)	35,842	35,344	N.A.	
	債務返済比率 (%) (注5)	21.5	16.8	N.A.	
	外貨準備高 (百万ドル) (注2)	10,715	N.A.	17,735	
通貨 (注6) (1999年1月15日)	通貨単位: ヴェネズエラ・ボリバル (Bs)、1ドル=569.8ボリバル				
会計年度	1月1日~12月31日				

注) *1: 15歳以上。

*2: 後期。*3: 1994年8月27日以降、外為は政府の管理下におかれ対US\$レートは固定されたが、96年4月22日管理が撤廃され、自由変動相場制となった。96年7月8日からは変動幅為替制度を導入。中心レートは1ドル=470ボリバルの上下5%で変動。中心レートは96年9月からインフレ率に合わせ、1.5%ずつ切り下げられる。

出所 (注1) International Financial Statistics Yearbook 1998 IMF
 (注2) World Development Report 1997, 1998/99 The World Bank
 (注3) Year Book of Labour Statistics 1996 1996 ILO
 (注4) Country Report: Venezuela, a 1st quarter 1999 EIU
 (注5) Global Development Finance 1998 1998 The World Bank

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

首都カラカスでは食料品は豊富であるため、あまり問題はない。しかし、一般の店で新鮮なもの入手するのはなかなか難しい。買い物をする際には常に鮮度に注意する必要がある。カビが発生したものや、腐った食料品なども売られていることがある。また、牛乳などは密閉状態が悪いせいか、カートンが膨らんでいたりジクジク濡れていたりもする。

食料品には着色料などが大量に使用されているらしく、清涼飲料や菓子類などは、鮮やかな着色が施されているものが多い。製造日や賞味期間の表示のあるものは少なく、防腐剤やその他の食品添加物などの心配もある。

外食や加工品、それにケーキや菓子類の味付けはかなり濃く、安価で手軽に飲用できる生ジュースも、オレンジおよびグレープフルーツ以外のジュース（スイカ、メロン、パパイア、レモンなど）には砂糖がたくさん加えられている。

日本製の日本食料品は、一部の和食用調味料類など、入手できるものもある。日本食料品の専門店では、刺し身用の魚類なども入手できるので、和食も十分楽しむことができる。

(2) 主な食料の出回り状況

<米> 米は当国でもよく食されていることもあって、価格も安価で常に入手可能である。米の特徴としては粘り気に欠けるので、油、塩、野菜、ニンニクなどを入れて調理するとよい。和食には向いていない。和食向きの「カリフォルニア米」は中国人が経営する雑貨店（通称「国際雑貨店」）や、韓国人が経営するロッテ（Lotte Market）で購入することができる。また現地米の「Dona Rosa」という品種は、比較的カリフォルニア米に似ている。

<パン> 常に入手可能である。一般に薄切り食パンが出回っている。パン屋（パナデリア）ではフランスパンやペストリー風の、比較的好いパンも入手できる。また、食パンを一斤単位で購入することも出来る。

自宅でパンを作る際に必要な「強力粉」は入手できないが、ドライイーストと小麦粉は入手可能である。

<肉類> 常に入手可能である。牛、豚、鶏、ウサギなど多種有り、肉屋に於いて塊の状態のものをステーキ用、薄切り、ひき肉などと指定して切り売りしてもらう。ハムなどの加工品もある。

<乳製品> 牛乳、ヨーグルト、チーズ、バターなどは常に入手可能である。ただし、生クリームなどは腐っていることもあり、衛生状態に問題があるものもある。粉ミルクや缶入り乳製品も豊富である。粉ミルクは「Indulac」、ヨーグルトは「Yoka」がよい。コーヒー用のクリーミーパウダーはあまり美味しくない。

<卵> 常に入手可能である。ウズラの卵もある。

<野菜> 常に入手可能である。どこの店先でも売られているものに、ジャガイモ、トマト、タマネギ、キャベツ、レタス、ネギ、大型キュウリ、ニンジン、絹サヤ、マ

ッシュルーム、西洋ナス、インゲン、カリフラワー、ブロッコリー、セロリ、グリーンピース、クレソン、ソラ豆、ピーマン、カブ、オクラ、カボチャなどがある。特定の店では大根、日本のキュウリ、ハウレンソウ、モヤシ、アルファルファ、ニラ、三つ葉、ショウガ、春菊などが入手できる。

マッシュルームを除くキノコ類とゴボウはない。

＜果物＞ 常に入手可能である。オレンジ、グレープフルーツ、細長いスイカ、マンゴー、パパイヤ、メロン、パイナップル、ライム、アプリコット、ブドウ（マスカット）、パッションフルーツ、リンゴ、洋ナシ、ネクタリン、イチゴ、マンダリン、イチジク、キウイなどがある。

＜魚類＞ 常に入手可能である。流通に問題があるので、店に列んだ時には鮮度が落ちているものもある。魚屋に、週2度ほどの入荷日に出向けばかなりよいものを購入することができる。特定の店では白身魚や生マグロといった生食（刺し身）可能なものも安価で購入できる。常時入手できるものに、エビ、タイ、イワシ、小さいイカ、メロー、タチウオ、サワラ、シイラ、カニ、タコ、スズキなどがある。

カラカスから車で40分ほどのラ・グアイラ港の魚市場に行けば、新鮮な魚を入手することができる。またこの魚市場では10～3月にかけて、生きたままの大きな伊勢エビを売っているのをときどき見かける。

＜調味料＞ 常に入手可能である。瓶入りの香辛料など、種類が多い。酢は酢酸に近いものや果実酢もあるが、和食には不向きである。デルモンテのケチャップ、クラフトのマーガリン、マヨネーズ、チーズなど、日本で馴染みの銘柄も多い。醤油は割高だが入手は可能である。

＜食用油＞ 常に入手可能で、だいたい混合の食物油を使っている。邦人家庭では「Mazeite」という名のコーン油 100%のものを使っているところが多い。オリーブ油、大豆油、ごま油などもある。

＜豆類＞ 当国の代表的な食べ物のひとつである。カラオタネグロをはじめ、多種の豆がある。ただし日本の黒豆、おたふく豆、ささげなどはない。小豆は国際雑貨店で入手できる。大豆は概ねいつでも入手できるが、質にはむらがある。

＜酒類＞ ビールは国産、ドイツ系ともに味はよい。代表的な酒はロン（ラム酒）である。スコッチウイスキー、ワインは国産、輸入品とも豊富である。日本酒は非常に高価で銘柄にも限りがあるが、国際雑貨およびロッテで販売している。

＜飲料水＞ 水道水は飲用には適さない。ミネラルウォーター（アグアミネラル）は常時スーパーやレストラン、アバスト（あちこちにある食料雑貨店）、パン屋などで購入でき、そのまま飲用しても大丈夫である。邦人家庭では通常18リットルの瓶入りの水を飲用・調理用として使っている。各アパートに週に1回、業者が自宅まで水を届けてくれる（曜日はアパートによって決まっている）。初回に瓶を買いとり2回目からは空き瓶を交換してくれるので、水代だけを支払う。清涼飲料類はペプシコーラをはじめ豊富である。マルタ（マルティンポラル、マルタカラカス）はビールの原料と同じで、子供用飲料として人気がある。

＜コーヒー＞ 安価で多種類ある。粉に挽いたものがほとんどであるが、インスタントコーヒーも売られている。

<インスタント食品類> 各種スープの素、固形スープの素、ゼリーの素、マッシュポテトの素などがある。冷凍のコロッケ、ハンバーグ、パイ生地などもある。

(3) 食料の入手

中国人や韓国人経営の店で、だいぶ割高ではあるが、日本食料品も購入でき、当域内では、比較的日本食料品の揃う国である。

国際雑貨

住 所：Av. Gloria, El Bosque

電 話：729121,729600

特記事項：インスタントラーメン、カリフォルニア米、もち米、アメリカ製キッチン醤油、焼き海苔、ワサビ、ふりかけなどがある。中国食料品で和食にも使えるものでキクラゲ、コンブ、佃煮用の海苔、干しエビ、春雨、ゴマ油、ゴマ、干しレンコン、干し小魚、干しゆば、干しタケノコ、缶詰（ザーサイ、タケノコ、エノキダケ、クワイなど）、寒天、タピオカスターチ（片栗粉の代用）などもおいてある。味噌、味の素、だしの素、焼き肉のたれ、カレールー、トンカツソース、菓子類（エビせん、アメ）なども入手できる。

この店の前では、毎週日曜日の早朝、中国人による朝市があり、日本のキュウリ、大根、ニラ、絹サヤ、中国野菜、モヤシ、豆腐、油揚げ、肉まん、あんまん、ワンタンの皮などが安く購入できる。

ロッテ

住 所：Los Palos Grandes

特記事項：米、インスタントラーメン、味噌、カレールー、素麺、干しうどんなど日本食料品および韓国料理素材がいろいろ入手できる。

阿比良亭（日本料理店）

住 所：Calle Guaicaipuro entre Av. Pichincha y Casanova El Rosal

電 話：9520030

特記事項：日本酒、ラーメン、ふりかけなども販売している。

他店と比べて野菜が新鮮で多様な店はスーパーのエクセル（住所：3a Av., Los Palos Grandes）と、八百屋のシルエラ（住所：4a Av., Los Palos Grandes）である。

牛肉の薄切り（すきやき用）が入手できる店は次のとおりである。

ウルトラマール

住 所：1a Av., Los Palos Grandes

電 話：2846956

モンテカルメル（Monte Carmel）

住 所：1a Av., Los Palos Grandes

電 話：2847009

Rey David は高いが、良いものを売っている。

日本から持参した方がよい食料品は次のとおりである。

醤油（自分の好みのメーカーのもの）、粉ワサビ（チューブのものよりも缶入りの方が長期保存可能）、和カラシ、七味トウガラシ、だしの素、味噌（当地でも入手可

能だが味は今ひとつである。航空便で持参し、冷凍庫で長期間保存可能)、麦茶(日本人学校では飲料水の持参が義務づけられており、大半が麦茶を持参している)、緑茶(アルミパックや缶入りはすぐに味が変わってしまうが、真空パックのものは4年以上もつ)、酢またはすしの粉、焼きのり(保存は1~2年が限度)、ミリン、焼酎、日本酒、かつおパック(長期保存可能)、インスタントカレールー、ワカメ、ヒジキ、かんぴょう(保存は1年位が限度)、高野豆腐、漬物の素(ぬか漬け用など)、梅干し、そば、うどん、そうめん、インスタント冷し中華、こんにゃく粉、にがり、納豆菌、ゴボウなどの素材缶詰などである。

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

冷蔵庫、電気コンロ、ガスレンジ、オーブンは家に備え付けられている。

当地で調達できるものには冷蔵庫、冷凍庫、電子レンジ、電気釜(ナショナルや東芝の海外向けの単純な構造のもので、タイマーなどは付いていない)、トースター、オーブントースター、ミキサー、ジューサー、ハンドミキサー、ホットプレート、鍋、フライパン、ラップ(日本のものと違い、大変扱いにくい)、アルミ箔、ビニール袋(シール付きのものもある)、ワックスペーパー、食器、タッパウェアなどがある。

当国製の食器類はあまりよくない。輸入品は、ほとんどセット(12人用)で販売されており高価である。スプーン類もセット売りで、単品では売られていない。フルーツ用の小さなフォーク、ティースプーンもあまりみかけない。食器類は品質の割に高価なので、日本からの持参が好ましい。

(2) 日本から持参した方がよい食器、調理器具など

基本的には日頃家で使っているものをできるだけ持参した方がよい。やかん(こちらでは手に入りやすく、高価である)、和食器(茶碗、汁椀、湯飲み、茶托、どんぶり、小皿など)、箸、箸置き、すり鉢、すりこぎ、急須、竹串、菜ばし、土鍋、すきやき用鍋、お盆(大・小)、保温ポット、包丁(万能包丁の他に刺し身用も)、まな板(小さなものは当地でも入手可能)、餅つき器(パン生地をこねることもできるものが便利)、圧力釜、電気コンロ(鍋物の時やガス工事の時などに重宝する)、弁当箱、水筒(通学・通園する子供用)などである。

また、電気釜、ホットプレート、卵焼き器、流し箱、ざる類、三角コーナー、大根おろし器、けん(つま)用おろし、巻き簀(すしを巻いたりする時に使う小型のスタレ)、漬物器、密封容器、ミキサー(当国ではジュースをつくったり、スープをつくったり、頻繁に利用する)も持参するとよい。

当国では、オーブントースターや電気釜をはじめ、日本から持参した家庭用電気製品には寿命などの関係で変圧器を使用している人が多い。変圧器は110ボルトを100ボルトに下げるものが必要である。こちらでは、このタイプの変圧器はなかなか手に入らないので、日本からの持参が望ましい。

お客を招く機会が多いので、料理の本も重宝する。日頃使っている本のほか、手づくり食品の本、材料別料理の本などがあると便利である。

1-3 外食

(1) 飲食店

外食は盛んで、ハンバーガーやピザなどの手軽に利用できるファーストフードから、いろいろな国の料理まで楽しむことができる。

<日本料理>

阿比良亭 (高級レストラン)

住 所: Calle Guaicaipuro entre Av. Pichincha y Casanova El Rosal,
Chacaito

電 話: 9520030

黒帯 (阿比良亭より安い。居酒屋風)

住 所: Edif. Monte, Av. E, Casino Local 3, Campo Claro

電 話: 348016

さくら (すしバー)

住 所: la Av., Los Palos Grandes

電 話: 2857321

<韓国料理>

ソウル (焼き肉料理)

住 所: Calle El Cristo No. 10, Sabana Grande

電 話: 723222

<中華料理>

Mr. Chow (雰囲気の良い店。ペキンダックが美味)

住 所: Av. Rio de Janeiro, Las Mercedes

電 話: 7526335

ヌエバ・チーナ (モンゴル鍋が美味)

住 所: Av. Principal Las Mercedes

電 話: 7516884

El Chef Chino (小ざれいな店、味も邦人向き)

住 所: Av. Gloria, El Bosque

電 話: 7310080

新楽酒家 (点心が美味)

住 所: Av. Principal con Av. Gloria, El Bosque

電 話: 7310090

<ドイツ料理>

Selva Negra

住 所: Colonia Tovar

電 話: 03351415

<南米風肉料理>

カリソー

住 所: Av. Blandin, La Castellana

電 話: 329370

ラ・エスタンシア

住 所：Av. Principal, La Castellana

電 話：331937

<南米風海鮮料理>

El Barquero

住 所：Av. Luis Roche, Altamira

電 話：2614645

AlHamar

住 所：3a Transv., Luis Roche, Altamira

電 話：2621813

<スペイン料理>

カサ・ファンチョ (中庭のある店)

住 所：Av. S.J. Bosco, Altamira

電 話：334614

ラ・フォンダ

住 所：Calle Veracruz, Centro Comercial Xincent, Las Mercedes

電 話：913553

<イタリア料理>

Il Padrino (明るい雰囲気のある店)

住 所：Plaza Sur, Altamira

電 話：327684

インフェルノ

住 所：Calle La Trinidad, Las Mercedes

電 話：924502

La Via Emilia (雰囲気の良い店)

住 所：Av. Orinoco, Las Mercedes

電 話：926904

Vittorio

住 所：Av. Principal de El Bosque

電 話：7310098

Visconti (ネクタイ、背広を着用しないと利用不可)

住 所：Sotano 1-Pza Museo de Arte Contemporaneo, Parque Central

電 話：5734601

<フランス料理>

アバンティエーノ

住 所：Av. San Felipe Esq., Av. Chaguarama, La Castellana

電 話：323640

ガセボ

住 所：Av. Rio de Janeiro, Las Mercedes

電 話：925568

プリミ

住 所：La Castellana

ピッツア

住 所：Las Mercedes

グルメ

所在地：インターコンチネンタル・タマナコ内

カサンドラ

所在地：ユーロビルディング内

メンバーズ マジスティ (会員制の店)

住 所：La Castellana

<その他>

Steak House

住 所：Av. San Felipe No.30, La Castellana

電 話：325227

Emore (雰囲気の良い店)

住 所：Centro Comercial Concreta, P.B.104-106

電 話：9793242

Bravamar

住 所：Av. Principal, La Castellana

電 話：315941

Casa Vecchia

住 所：Av. Mohedano, La Castellana

電 話：311707

Chocolate

住 所：Av. Tamanaco, El Rosal

電 話：9516130

※予約は多人数の時のみ必要である。チップは 5%前後である。

(2) その他の飲食店

原則的に、夜外出することは防犯上あまり勧められない。バーを利用する際は、有名ホテル（カラカスヒルトンの 15 階のバーなど）や一流レストランのものを利用した方がよい。

2. 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

年間を通じて気候の変化は少ない。日差しは強くても、湿度が低いので過ごしやすい。

一般にヴェネズエラ人は貧富の差を問わず、公私両面に於いてたいへんおしゃれ且つ派手好みであり、外見を大切にする傾向が強い。

そのせいか、衣料品類は当国製品・輸入品ともに量も種類も豊富である。しかし品質はよいとはいえない。日本から多量の衣類を無理に持参しなくても補充は十分可能である。

靴やバッグなどの皮革製品は品質もよく、日本に比べると安価である。イタリア製品も多い。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

1年を通して夏服や合服で間に合うが11～12月は朝晩冷え込むこともあり、セーター、カーディガン、トレーナーなどが必要である。

<男性用> 下着類（パンツ、ブリーフ、綿シャツ、ランニングシャツ、ズボン下）、パジャマ、靴下、ハンカチ、ワイシャツ、背広、ブレザー、セーター、ネクタイなどを持参した方がよい。

<女性用> 下着類各種、パジャマ、トレーナー、ブラウス、スカート、ストッキング、スラックス、セーター、ブレザーなどの外出着も持参した方がよい。

<子供用> 滞在期間中の成長に合わせ、各種サイズを余裕を持って取り揃えておくことが望ましい。日本人学校のある場所は温度差が大きくかなり冷え込むことがあるので、綿のジャンパーやカーディガンなども持参すると重宝する。運動靴もよいものが手に入らないので、日本から多めに持参した方がよい。

<乳幼児用> 国産品・輸入品ともに品数は豊富である。しかし、おむつカバー、トレーニングパンツ、パジャマなどはできれば日本から持参した方がよい。

当地では木綿製品（下着、靴下、タオル類など）が品質の割に高価であり、洗濯などによる傷みも激しいので、大人用子供用共に、予め日本である程度の数量を準備し持参した方が無難である。

その他に、室内用（来客用）スリッパは当地での入手が意外と難しいので、何足かまとめて持参するとよい。来客は10人以上に及ぶ場合もある。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

特にないが、マルガリータ島やカラカス市内で時々、洒落た輸入品や国産の衣料品を買うことができる。

(4) その他の留意点

女性用の靴は幅が狭く、洋服はサイズの合うものを探すのに苦労する。

2-2 礼装

(1) パーティー

パーティー（フィエスタ）では通常男性はスーツを着用し、女性はフォーマルなワンピースまたはスーツを着用する。

カラカスでは公式・非公式のパーティーに限らず夫婦で出席する機会が多い。男性はタキシードまでは必要ないが少なくともダークスーツを、女性はパーティー用ドレスを2～3着持参した方がよい。

着物は外国人の間で評判がよいので、1枚くらい持参してもよい。

(2) 式典

該当情報無し。

(3) 冠婚葬祭

結婚式に出席する場合は、タキシードを着用する必要はなく、男性はフォーマルなスーツ（背広）、女性もスーツまたはワンピースでよい。

葬儀に参列する際には、日本ほど黒一色の服装になることはない。男性の場合は、ジャケットにスラックス、それにネクタイ着用程度であればよい。これ以下の服装は好ましくない。

(4) その他の留意点

該当情報無し。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店は市内のいたるところにあり、ドライクリーニングも可能である。しかし、技術やサービスは日本ほどではない。

電気洗濯機は当地での購入で十分であり、日本から持参する必要はない（家具付き住宅の場合は設置してあることもある）。ただし 2 槽式のものはない。

アイロン、スチームアイロン、アイロン台は市販されている。

(2) 仕立て、修繕

紳士服、婦人服などの仕立て・修繕店も各所にあり、利用できる。

(3) 保管

カラカスは年間平均気温が 20℃前後とほぼ一定しており湿度もそう高くないため、日本から持参した衣料・皮革製品・絹などの保管については、特に問題はない。

アパート内の保管場所はクローゼット式で、日本のタンスのような大きな引き出しはあまりない。

3. 住宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

民間企業を含む邦人の長期滞在者は「アパート」と呼ばれている賃貸マンションを利用しており、「キンタ」と呼ばれる独立家屋は利用していない。警備やメンテナンスの煩わしさなどを考慮すると、アパートの方が楽であり、一般的でもある。

アパートには家具付きと家具なしがある。家具付きの方が便利であるが、部屋数はかなり少ない。家具付きの場合、不足している家具は契約時の交渉により追加可能である。また、傷んでいるものは修理ないし取り替えを要求することもできる。エアコンは一般家屋ではほとんど使用されていない。

家賃は建物の古さやガードマンの有無、アパートのレベルによって大きく変化する。

治安は非常に悪く、強盗、自動車の盗難、ひったくりなどが発生している。一般に高級なアパートでは、ガードマンによって 24 時間体制で警備されていることが多いが、昼間のみの警備しか行わないところもある。

邦人を含む外国人が多く居住している地区は、ラ・アルタミラ、ロス・パロス・グランデスなどの住宅街である。特にロス・パロス・グランデス付近には各国の大使館

があるほか、スーパーや各種のレストランも地区内にあり、政府要人や外交官なども住んでいる。近年特に当地区周辺のアパートの値上がりは激しく、ドル契約であるにもかかわらず、毎年最低でも 10%程度値上がりしている。治安や利便性からも当地区の人気は高いが、異常とも思えるアパートの家賃の高騰から、周辺地区へと住宅を求める邦人が多くなってきたようである。

3-2 ホテル事情

邦人がよく利用するホテルは、次のとおりである。また、中長期滞在者向けの台所付きホテル（小型のアパートメントホテル）などもいくつかある。

カラカスヒルトン

住 所：Urbanizacion El Conde

電 話：5035000, 5034242

特記事項：日本からの出張者が数日の日程で泊まるカラカスの高級ホテル。

インターコンチネンタル・タマナコ

住 所：Urbanizacion Las Mercedes

電 話：2087111, 2087000

特記事項：日本からの出張者が数日の日程で泊まるカラカスの高級ホテル。

ユーロビルディング

住 所：Chuao

電 話：9071111

特記事項：ヒルトン、インターコンチネンタルと並ぶ5つ星のホテル。3つの中では一番新しい。

ホテル・パセオ・ラス・メルセデス

住 所：Av. Principal, Las Mercedes

電 話：910033

CCCT

住 所：Centro Ciudad Comercial Tamanaco, Chuao

電 話：9590611, 9591044

コンチネンタル・アルタミラ

住 所：Av. S. J. Bosco

電 話：2616019

特記事項：長期滞在可能。手頃な料金。

アルタミラ・スイーテス

住 所：la Av. con la Transv., Los Palos Grandes

電 話：2093111, 2093497

特記事項：長期滞在可能。

アナウコヒルトン

住 所：Parque Central, El Conde

電 話：5734111

特記事項：長期滞在可能

エル・シド

住 所：Av. San Felipe, La Castellana

電 話：2632611

特記事項：台所付き。日本大使館に最も近い。

3-3 住宅の探し方

もっとも簡便な方法は、物件の紹介数も多い「El Universal」などの新聞広告を利用することである。英字新聞「The Daily Journal」にも、量はそれほど多くないが広告が毎日出ている。しかし、言葉の問題がある場合には、大使館の担当者が、大使館に出入りしている不動産屋を紹介してくれる。

街を歩いていて手頃な建物があつた場合には、その建物の管理人（コンセルへ）にアパートの空きの有無を聞いてみるのも一方法である。しかし、ひとつの建物内には通常10～100戸の部屋があり、家主もそれぞれ異なっている。そのため管理人自身は詳しい話は知らないことが多いので、効果はあまりないようである。

3-4 住宅の選定上の留意点

住宅事情の悪い日本から赴任してくると、どのアパートも広々としていて非常に立派に見えてしまうが、これに幻惑されることの無いように慎重に選定すべきである。

設備については慎重に点検し、少しでも気になるところがあれば完全に修理してもらえ旨、契約時に取り決めること。排水管などは修理が非常に困難であり、時間も相当に要するので、契約前にしっかりと見極める必要がある。入居後に直すという約束の履行は非常に困難なため、修理が完全に終わるまで入居を見合わせるなどした方がよい。修理が入居後になる場合には契約書にその旨を明記し、約束の日までに直らない場合にはどうするか、ということまで決めておいた方がよい。

カラカスでは時折断水することがあり、アパートによっては給水タンクの容量によっては水不足にも悩まされる。タンクの容量の大きいアパート（一般的には、居住世帯数の少ないアパート）が、水不足に悩まされることも少ない。温水設備の温水タンクも、シャワーをゆったりと使っていると1人で使い切ってしまう程度の容量のものしかついていないため、家族構成によってはこの点についても十分考慮する必要がある。容量の大きいボイラーまたは複数のボイラーが設置されている住宅が望ましい。

住宅の出入口は、錠付き（できればマルチロック錠）の鉄格子戸がついているのが望ましい。ついていない場合は入居に際して取り付けってもらうことも可能である。

駐車場は地下ないし屋根付きで、駐車中にほかの車に接触される心配のない広さと配置、それに来客の車のことも考慮し2台以上駐車できるスペースのあることが望ましい。駐車場扉の開閉は、差し込み式の鍵よりリモコン式の方が望ましい。路上駐車は盗難のほか強盗にあう危険性もあるので避けるべきである。

建物の方向や位置などによって、涼しさや自動車などの騒音に違いがある。特に後者にはよく注意した方がよい。夜間に、路上駐車している車の防犯用の警報機が鳴り響いて眠れないことなどもある。

スーパーや日用品店などは点在しているが、商店街まで歩いて行けるような便利なところに建てられているアパートもある。

日本人学校に通う子供がいる場合には、事前に日本人学校からバスルート図をとり寄せ、スクールバスがくるかどうかを確認することも大事である。バスルートからアパートが離れていると子供はバスルートの地点まで歩かねばならず、バスの待ち時間なども考慮すると防犯上好ましくない。バスの運行ルートは、基本的に現行ルートの継続となっているが、4月と10月にはPTA委員会で変更の審議を行っている。

また、小さい子供のいる家庭の場合、主な遊び場はアパート敷地内のブランコ、すべり台などのある小規模な子供広場になることが多いため、この広場（遊び場）の有無、あるいは善し悪しを確認すべきである。

最近、物価の上昇に伴い家賃の上昇も著しく、手頃な物件がみづかりにくい状況ではあるが、あまり長引いて探すことは勧められない。貸家をいろいろみて歩くことによって住宅の善し悪しができるようになるが、実際に探す前に、邦人などが実際に居住しているアパートをいくつか訪問し、住み心地や問題点などを聞いてみるのもよい方法である。

3-5 住宅の契約

一般に契約期間は1～2年で、任期全般に渡って契約することもある。しかし、契約期間内に転居や転出したい時に不都合が生じるので、契約は1年毎にする方がよい。

家賃は相場よりもやや高めに呈示されることが多いので、相手の言い値で承諾せず、ある程度交渉した方がよい。

毎月の家賃の支払は、銀行振り込み、もしくは家主に直接というのが一般的である。一般には現地通貨での契約および支払いを行っているが、最近はドル契約を望む家主も増えており、デポジットを要求されることも多い。しかし、退居時に返済してもらえないことが多いため、大使館に保証してもらうなどの方法により、極力支払わなくてもよいようにする。

契約時には、契約事項が必要条件のすべてを満たしているかどうかを、サイン前に隅々まで、必ず目を通すこと。設置されている器具や家具が正しく記述されているか、記述内容に不当なものや不審な点がないかなど、十分チェックすることが必要である。隅々まできちんと目を通し、理解しておくことが、後のトラブルを防止するうえでも重要である。

なお、斡旋業者などに頼んだ場合は、一般的に家賃の1ヵ月分の手数料が必要である。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

アパートの維持管理は一般に住人の責任になっている。退居時には内壁の塗装をしなければならないが、契約によっては、大きな修理などを家主の負担で行うこともある。

エレベーターなどの共用部分および水道料金は、「コンドミニオ」という各アパートの所有者団体が管理しており、その費用は一般に家主の負担である。

電話、電気、ガスにかかる費用は居住者の負担であるが、支払いが遅れると連絡も無しに止められてしまうことがあるので、注意を要する。前の居住者が料金を滞納していたために、入居後しばらくして止められてしまうということもある。

ゴミやし尿処理の問題はない。

3-7 その他

盗難防止のための鉄格子戸や、何重もの施錠および外出時の注意など、自衛策の強化が図られている。また、入居の際には錠前を新しいものに取り替えてもらった方がよい。前の居住者が複製を持っている可能性がある。

家屋や家具などの保険は、一般にはあまり利用されていない。しかし、最近では盗難などのケースに備え、保険に加入する人が出てきた。

4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法など）については、事前に医療関係者から専門的アドバイスを受けるようにしてください。

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

入国に際して必要な予防接種は特にないが、黄熱病・破傷風・狂犬病の予防接種は受けておいた方がよい。地方に出向いた際に、黄熱病の予防接種の証明書が無いと、通行を禁止されることもある。

新生児、乳幼児などの予防接種は当地でも一通り受けられるので、慌てて済ませてくる必要はない。しかし、日本より薬が強く間隔も短いので、アレルギー症状を持っている子供や、接種の途中で当国に来る場合などは、事前に日本の医師とよく相談しておいた方がよい。

(2) その他の準備

当国には歯科医は多く小児歯科などもある。しかし治療面に於いては、すぐに歯を抜いてしまう傾向にあるため、日本で治療を済ませた方がよい。ただし、歯科矯正は盛んで、安価である。

疾患や持病のある人は、赴任前にかかりつけの医師などに相談し、できるだけ日本で完治するように心がけたい。

眼鏡やコンタクトレンズの類は予備を持参した方がよいが、当地でもそれらを作ることは可能である。眼鏡店には検眼師がおり、店舗も大きなショッピングセンター内には大体ある。フレームは国産をはじめイタリア製などの輸入品も多い。レンズはアメリカ製が多い。偏向レンズはない。

コンタクトレンズのソフトと酸素透過性レンズは、大部分がアメリカ製である。ハードは材料がアメリカ製で当国で研磨している。洗浄用具、薬品および小物類も一応ある。

また、近視の人は日本から、度付きの「ゴーグル」を持参すると海などに潜る際に便利である。ゴーグルのレンズの色は、着色されたものより透明の方がよい。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

医療機関は大きく分けると公立病院（ホスピタル）、個人開業医、クリニックに分け

られる。公立病院は低料金だが、常に大変混み合っており衛生上の問題もある。邦人は個人開業医またはクリニックを利用している。

クリニックは近代的な設備（検査室、レントゲン室、手術室、分娩室、入院施設、救急など）が備わった高層建物に、個人開業医をテナントに入れたようなものである。

しかし、立派なクリニックにオフィスを構えていても、必ずしも名医とは限らないので、医師を選ぶ時は十分な注意が必要である。

個人開業医はアパートなどにオフィスを構えている。オフィスには医師と秘書だけがあり、検査が必要な場合はクリニックへ行き結果を持って帰り診断を受ける。分娩、手術、入院など、契約によりクリニックの施設を使う。

診察はほとんどが予約制である。医薬分業で、クリニックには入院者用以外の薬はない。患者は医師に処方せんをもらい、点在している薬局で買う。薬局はその地区に一軒、24時間、土・日曜日・祭日も開いているところがある。これは当番制であり、昼でも夜でも「ツルノ（Turno）」というネオンサインを掲げている。

医師は予防接種以外の注射はしない。注射が必要なときは、薬局で注射器と薬を買い、注射できる人を探すことになるが、大抵の場合、そのような人は薬局に多い。それでも見付からない時はクリニックの救急（エメルヘンシア）に薬と注射器を持って行くと有料でもらうことができる。

主なクリニックなどは、次の通りである。

Clinica El Avila

住 所：Av. S.J. Bosco y 6a Transv., Altamira

電 話 2081111（代表）

Centro Medico de Caracas

住 所：Plaza El Estagua, San Bernardino

電 話：5099111（大代表）

特記事項：24時間態勢

Policlinica Metropolitana C.A.

住 所：Calle A-1, Urbanizacion, Czurimare

電 話：9080100（代表）

Instituto Medico La Floresta

住 所：Calle Santa Ana y Av. Principal, La Floresta

電 話：2852111, 2852257

特記事項：24時間態勢

Centro Clinico de Maternidad Leopoldo Aguerrevere

住 所：Av. Rio Manapire-Parque, Humboldt-Prados del Este

電 話：9792622（代表）

特記事項：小児・産婦人科のみ

Clinica para Enfermedades de Los Ojos（眼科救急病院）

住 所：Urbanizacion Campo Alegre 2a Calle, Chacao

電 話：339535, 310971, 310731

特記事項：24時間態勢

これらの病院はどこも入院可能である。

英語が多少わかる医師も多いが、スペイン語も必要である。邦人の多くはクリニカ・アビラ、クリニカ・メトロポリターナ、フローレスタなどを利用している。

クリニカ・メトロポリターナのドクター、アパルセーロ氏 (Dr. Miguel Aparcero、TEL: 9864934 Room 2U) は消化器系が専門で、日本へ留学した経験があり、夫人が邦人でもあるため日本語が堪能である。

(2) 緊急時の対応と措置

かかりつけの医師がいる場合、休日や時間外でも自宅で電話に応じてくれる場合が多いが、応じてもらえない場合には、重病でなくてもクリニカの救急が利用可能である。しかし常駐しているのは内科医、小児科医で、必要に応じて専門医を呼ぶシステムになっている。救急は入口が別にあり、車が横付けできるようになっている。

救急車を呼ぶには、次の三つの方法がある。

1. 消防署の救急車サービス (電話 5454545、無料) に依頼する。
2. 私立の救急車サービス (24 時間態勢、有料) に依頼する。この場合、飛行機による救急サービスを利用することも可能である。これは職業別電話帳の、Ambulancias の項に詳しい記述がある。

Ambulancias del Este (TEL: 320251, 320750)

Ambulancias Avila (TEL: 310172)

3. 病院の救急に電話する (救急車を持っている病院もある。有料)。

このうちもっとも信頼のおけるのは、私立の救急車サービスである。しかし通常の場合、救急車を待つよりもタクシーなどで病院に向かった方が早い。

旅行中、カラカス以外の地でよい医師を見つけることは非常に難しいが、一流ホテルには委託医が一応いる。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

各自健康状態を踏まえ、必要と思われる薬は多めに携行した方がよい。

当国で最もよくかかる疾病は風邪で、喉がひどく痛むもの、せきが長く続くもの、下痢や嘔吐を伴うものなど種類が多く、大流行することもあるので風邪薬は数種類携行するとよい。

そのほかには、食あたり・下痢止薬、胃腸薬、傷薬、目薬 (水泳をする機会が多いため)、パファリン (大人用、子供用共に) などの鎮痛剤、じんましんなどアレルギーを抑える薬、化膿止め、子供用乗り物の酔止め薬 (日本人学校への通学はバスで片道 40~50 分かかるので、酔いやすい子には必要と思われる)、湿布薬 (当地では入手不可)、子供用座薬、抗生物質の軟膏などの持参が望ましい。

医薬品ではないが全般的な病気の本 (『家庭の医学』など)、スペイン語の医学用語の本 (例『5ヶ国語病気の訴え方ハンドブック』ジャパントイムズ編) などは必要である。そのほか、英語でもスペイン語でも一般人向け医療用語の本 (例『外国で病気になったときあなたを救う本』ジャパントイムズ編) などを持参するとよい。

(2) 任国で調達できる医薬品

銘柄を限定しなければほとんどの薬は入手可能である。米国製品を当地で生産して

いるケースが多い。

(3) 任国で調達できる衛生用品

ほとんどのものが入手可能である。歯ブラシ、歯磨き粉、生理用品（米国の会社の当地製である。日本製に比べ質は若干劣るが多種ある。生理帯はない。）、紙おむつ（種類豊富である）、日焼け止めクリーム、ガーゼ、包帯、綿、綿棒は常に入手できる。コンドーム、幼児用歯ブラシは日本からの持参が望ましい。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

飲み薬のほとんどは、液体状の瓶入りのものである。乳液のようにみえる飲み薬や、目薬のようにみえる飲み薬などもあるので、使用法を間違えないように注意すること。スペイン語記されている使用説明は理解しづらい場合がある。薬効は日本のものよりも強く、量も多く飲むように表示されている。特に、妊娠中またはその予定の人は、日本で医師と相談のうえ風邪薬なども含め一通り持参し、それを使う方がよい。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

当国での分娩は可能であり、異常分娩・早産・流産などへの対応も可能である。

公的機関の行う検査や指導は一切ない。自分で医師をみつけ定期検診をしてもらうことになるが、その医師が分娩をも担当するので、出産経験者から情報を集め慎重に担当医（病院）を決めることが大切である。名医と評判の医師でも自然分娩を行わない、または行えない医師も多いので、自然分娩を希望する場合は特に慎重に選ぶこと。当国では部分麻酔の無痛分娩が一般的であり、出産の際に麻酔の専門医が立ち会ってくれる。また、こちらで出産した邦人の例をみると、初産を含め予定日より1ヵ月ほど早く産まれるケースが非常に多いので、一応の注意が必要である。しかし、ほとんどの医師がポケットベルを所持しており、連絡を入れれば分娩の際に病院にかけつけてくれる。

定期検診に関しては、超音波診断装置（ウルトラソニック）を持っている医師が多く、内診を行うことは少ない。また、ウルトラソニック診察の際に胎児の性別がわかるとそれをすぐ本人に告げるので、希望しない場合は告げないように事前に断っておく必要がある。

母親学級は医師に紹介してもらい、夜間に夫婦で受講することになる。しかし、日本のように短時間で必要なことを全て学ぶわけではなく、たくさん時間をかけて学ぶことになるため、初産の妊婦にはよいかもしいが、経産婦にとってはもどかしさを感じるかもしれない。また、日本の産院などとは違い個室で十分時間をとって診察してくれることが多い。疑問点などを予めメモし質問するようにすれば、何でもきちんと回答してくれる。電話での質問も受けてくれる。（前述のクリニカ「フローレスタ」のリベロ先生の場合）

出産に際して、夫が分娩室の中まで付添うことは可能であり、病院側に拒否された場合でも言葉の問題を主張すれば、大体は認められる。

病室はシャワーおよびトイレ付きの個室となっている。入院は通常2日くらいであるが本人の希望により1週間くらいまで延長することができる。費用は病院によって異なる。

中絶は法律で禁止されている。

(2) 出産後の対応

病院側からは出産翌日にはシャワーを浴び、廊下を歩くように指示される。当国では日本と違い、出産後2日目ぐらいに退院するため、新生児のへその手当などは母親自身で行わなければならない。

母親は出産から半月経った時点で、妊娠中および出産時に担当してもらった医師のもとで検診を受ける。子供には適切な小児科医を決め、毎月の定期検診を行ってもらうようにする。定期検診の際には、医師が必要な予防接種を順々に行ってくれる。日本のように公的機関が予防接種を一斉に行ってくれることはない。

予防接種の一応の目安は次のとおりである。

ポリオおよび3種混合

… 4種同時に生後2ヵ月、4ヵ月、6ヵ月、18ヵ月時に各1回

ポリオおよび2種混合

… 3種同時に5歳、9歳、13歳時に各1回

BCG … 生後3日以降、生後30日までの間に1回。

(生後30日を過ぎている場合はツベルクリン反応を行ってから1回)

トリバレンテ (はしか、おたふくかぜ、風疹)

… 生後12~15ヵ月時に1回

BCGは、公立病院または指定の医師のところへ行かなくてはならない。クリニカ・アピラ (Dr. Armondo Millan TEL: 2081780 710号室) では月に1度、日を決めてツベルクリン反応、そしてその3日後ぐらいの指定日にBCGの接種を行う。いずれも予約が必要で、接種後には証明書を発行してくれる。BCG以外の予防接種に証明書は発行されないが、日本へ帰国後必要となることが予想されるので、依頼して発行してもらう様にする。

BCG以外の予防接種は、個人開業医がいつでも接種を行うことができる。したがって、日本での予防接種の途中で出国する場合でも心配はない。また、接種の時期を遅らせたり、ポリオと3種混合を別々にしたりすることもできるので、日本で医師とよく相談してくること。

(3) 育児

哺乳瓶などの育児用品は揃っている。紙おむつは、アメリカからの輸入品で良いものがロス・パロス・グランデスの「輸入おむつ専門店」で手に入る。布製のおむつは綿100%で作られており、比較的よい。中でも「クリティ」という銘柄が一番よいようである。おむつカバーは日本からの持参を勧める。また個別包装の洗浄綿も日本から持参するとよい。当地は水質がよくないので、乳児の目の周りの洗浄などに重宝する。乳児用の衣類は豊富であるが素材が綿100%のものは少なく、使い勝手はあまりよくない。搾乳器、母乳パッドは市販されているが、哺乳瓶の常温の消毒薬はない。

粉ミルクも多種あり、大豆ミルク (Isomil) もある。瓶入り果実のベビーフードはハインツ、グラバーが入手できるが味はあまりよくない。日本の乳児用のおやつのようなものは少ない。

乳児用おもちゃは「Chico」または「Mammy」というメーカーのものが比較的よい。

ピジョン製のものも探せば入手できる。

ベビーカーは当国製および高価な「Aplica」がある。Aplica 以外の輸入品も各種ある。当国製の「Jane」は比較的よい。価格は 8 万ボリバル(2 万円程度)である。

また、育児書、母親用の医学書などはぜひ持参するとよい。

産後、落ち着くまでの間、住込みの看護婦（エンフェルメラ）を頼むこともできる。費用は家政婦／夫を基準として、その倍はかからない程度である。夜間の授乳を行う以外であれば夜泣きの世話などもしてくれるので、産後の 2～3 ヶ月は家政婦／夫のほか看護婦を頼むのもよい方法である。

また、邦人の間では乳児のへその傷口が乾く頃までの間、水質に問題があるので沐浴に給湯器の湯を使わない人が多い。配達される瓶入りの水をあたためて使ったり、水道水を煮沸させ瓶入りの水を加えて使ったりしている。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

医師のレベルはかなり高いようである。設備も、一流のクリニックではかなり整っており大概の手術は可能である。しかし、設備管理の問題や気候条件などのため、手術後の問題が起こりやすいといわれている。特に難しい手術を受ける際にはアメリカへ行くのが無難である。

(2) 手術設備の状況

クリニックの中でも「セントロ・メディコ」が歴史も古く、良いとされている。クリニックの病室はシャワー、トイレ付きの個室がほとんどである。

(3) その他の留意点

入院する場合は前払い金を払わなければならない。金額は、実施される治療内容および予想される治療内容によって異なるが、最低でも 50 万ボリバル（10 万円以上）程度である。これは退院時に精算される。

なお、過剰診療と思われるケースもあるので、手術が必要と診断された場合は急を要する手術を除いて、必ず別の医師にも診断してもらうことが大切である。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

当地でかかりやすい病気には次のようなものがある。

乳児 重症胃腸炎、呼吸器の感染症、アレルギー

子供 重症胃腸炎、呼吸器の感染症、アレルギー、寄生虫

大人 心臓病、高血圧、糖尿病、脳いっ血、胆石、胆のう炎（特に女性に多い）

病気ではないが、流産なども多い。

その年の気候にもよるが、雨季（特に 8 月頃）に流感が猛威を振るうことがある。また、小さな子供は中耳炎を起こすことも多い。水質が悪いためか目の充血に悩まされる人もおり、同じ理由で尿道感染症や膀胱炎などもみられる。

個人差はあるが、食べ物が原因と思われる下痢も多い。ほとんどの場合、症状もそれほどひどくなく薬を使わずに治るケースが多い。しかし胃腸の弱い人は長引くこともあるので自分にあつた薬を持参するとともに、口に入れるもの（食べ物や飲み物など）には十分注意を払う必要がある。

はしか、百日ぜき、風疹は予防接種が早期に行われているので、それほど多くないようである。

(2) 風土病・伝染病

マラリア、フィラリア、黄熱病はカラカス市内にはないが、地方では少しみられる。コレラはほとんどない。結核、狂犬病、ライ病、チフス、ジフテリア、破傷風は少ない。開発途上国のなかでは伝染病は少ない方であるが、赤痢は多く、注意を要する。また性病や肝炎は多い。

(3) 有害動物、病害虫

市内でよくみられるのは、サンクドロー（蚊よりも小さく、刺されると痒みを伴う）、ハエ、ゴキブリ、ハチ、蛾、ネズミなどである。

日本人学校付近で時々、サソリや毒ヘビの被害が発生している。サソリに猛毒は無いようであるが、ヘビは種類によって猛毒を持っているものもいるので注意を要する。万が一、毒ヘビに噛まれた場合には、かまれた部分の上部（心臓に近い方）を固く縛り、直ちに病院へ行き血清を打ってもらう。血清は毒ヘビの種類によって異なるので、かまれたヘビの特徴（色や模様）を覚えておき、医師に報告する必要がある。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

宅配される 18 リットル入りの瓶の水、もしくは食料品店で売られているプラスチック容器（小瓶）入りのミネラルウォーターを利用している。ミネラルウォーターはそのまま飲用できるが、宅配される水は煮沸してから飲用するのが望ましい。水道水は硬水（カルシウムやマグネシウムが含有されている）であり、直接飲用する習慣はない。

(2) 濾過器の入手

当地での購入は可能であり、輸入品も入手できる。また、アパートによっては設置されている場合もある。

(3) その他の留意点

断水や大雨の後に水道水が濁ることがあるが、こういう場合、浴槽には溜めずシャワーのみに利用することを勧める。特に女兒、妊婦、産後すぐの女性は注意が必要である。また、水道水でハードコンタクトレンズを洗うと、レンズに傷がつき使用できなくなるので注意を要する。水道水（ウォータークーラーの水も同様）およびレストランで出される水は飲まないこと。別にミネラルウォーターを注文するようにする。外では氷は食べない。

オレンジ、グレープフルーツ以外の生ジュースは外では飲まない。牛乳は、下痢をすることもあるので火を通してから飲むようにする。ただし、低脂肪牛乳、長期保存用牛乳はそのまま飲んでも問題ない。

また、外では火の通っていないソースや生の貝は食べない。ハム類なども火を通すようにする。レストランで出るチーズや切り売りのチーズは食べない。野菜、果物は流水でよく洗ってから食べることが大切である。

少し住み慣れるにしたがって胃腸の抵抗力もついてくるが、小さい子供などがいる家庭では、食べ物には気を抜かずに注意した方がよい。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

首都カラカスには、日本人学校をはじめ欧米各国系のインターナショナルスクールがあり、国籍いかんにかかわらず多くの子弟を受け入れている。このうちアメリカ、フランス、ドイツ、イタリアの各校は幼稚園から高校まで、イギリス、オランダは幼稚園と小学校を有している。邦人子弟の在籍者の多い学校は「Colegio Internacional de Caracas (CIC)」で、邦人子弟の在校生は20人程度である。この学校に入学する場合にはある程度の英語力が必要である。

日本人学校は小・中学校で高等部がないため、ほかの学校に進学することになる。一般にはほとんどの中学卒業生は日本の高校を受験している。(日本へ帰国してから高校を受験することを考慮し、毎年12月末に仮卒業式を行っている。)

しかし、日本人学校の中学生は日本の高校受験を考える際に、日本人学校だけの勉強では受験に不利なことがある。受験案内や学校案内、および各高校の願書などの受験情報を、日本の留守宅などに依頼し、いくつかまとめてOCSなどで送ってもらう方法が無難である。

(2) 日本人学校

1975年11月1日に日本大使館付属学校として設立され、1980年4月から現在の校舎で授業が行われている。

<カラカス日本人学校>

所在地：Carretera Union, Parcelamiento Juan Garcia, "El Otro Lado al Sur del Hatillo", Parcela No.5, El Hatillo, Estado Miranda

通信連絡先：Apartado 61204, Chacao

電話：016-223012, 9611244

F A X：9637835

小学校、中学校、補習の3課程がある。小・中学校は月～金曜日まで授業が行われており、教師15人(文部省派遣11人、現地採用4人)、生徒数65人である。補習課程は、平日インターナショナルスクールまたは現地校に通学している生徒を対象にして、土曜日の午前中に国語のみを教えている。1998年度時点での生徒数は40人である。生徒の送迎は、全日制、補習ともにスクールバスが行っている。

(3) 現地校、外国人学校

邦人子弟が通っている主なインターナショナルスクールとしては「CIC」がある。

<Colegio Internacional de Caracas> (CIC)

住所：Las Minas de Baruta

電話：9450444, 9450422, 9450944, 9450705, 9450508, 9450677

F A X：9450533

生徒数：高校100人、中学校100人、小学校100人、幼稚園20人

教員数：60人(うち75%がアメリカ人)

学期：9～6月

(4) 幼稚園

日本人学校には幼稚園課程がないため、邦人家庭の幼児は主として地元の幼稚園に通っている。毎月の授業料と教材費を含めても費用は比較的安い。

邦人駐在員が最も集中して住んでいるロス・パロス・グランデス地区内にあり、邦人家庭の幼児が多数通っている幼稚園は「Mi Casita Blanca (TEL: 2839778, 2847083)」、「Jardin de Infancia Primavera」、「Edu Plin」などである。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

入学手続は、所定の入学申込書に記入のうえ学校に提出する。納入金は次のとおりである。(1998年度)

<入学金>

第1子	208,000	ボリバル	(5万円程度)
第2子	166,400	ボリバル	(4万円程度)
第3子	145,600	ボリバル	(3万5千円程度)

<授業料>

毎月	93,600	ボリバル	(2万3千円程度)
----	--------	------	-----------

<スクールバス登録料> ※バス利用開始時1回のみ支払

第1子	200,000	ボリバル	(5万円程度)
第2~4子	160,000	ボリバル	(4万円程度)

<スクールバス料金> ※毎月支払

第1子	52,200	ボリバル	(1万3千円程度)
第2子	41,760	ボリバル	(1万円程度)
第3子	37,800	ボリバル	(9千円程度)

<PTA会費> ※毎月支払

3,000	ボリバル	(7百円程度)
-------	------	---------

<学校保険(傷害保険)>

年額	3,925	ボリバル	(1千円程度)
----	-------	------	---------

<施設利用料>

7,860	ボリバル	(2千円程度)
-------	------	---------

また学校建設資金の一部に充当するため、日本人学校への入学・転入に際しては、学校入学金が義務づけられている。

日本人学校はカラカスの郊外、南部の丘陵地帯のはずれで市街の中心部から約25キロメートルの距離にある。朝夕の道路の渋滞時には、片道約1時間を要する。このため市内各所に分散している生徒を、3台のスクールバスが巡回し、送迎を行っている。スクールバスの運行状況は、次のとおりである。(2号車は欠番)

1号車	小型、ロス・パロス・グランデス近辺	(定員24人)
3号車	小型、アルタミラ・カステジャーナ近辺	(定員20人)
4号車	小型、アルタミラ・カステジャーナ近辺	(定員24人)

学校の主な行事には小・中学校ともに、春の学習発表会や遠足・修学旅行、夏の遠足、秋の運動会などがある。

児童・生徒の必要文具類は次のとおりである。

<小学生> 水彩絵の具セット、クレパス、色鉛筆、図画鉛筆、書き方鉛筆、定規、紅白帽子、体育用短パン、カスタネット、そろばん、たて笛、習字道具・用紙、コンパス、三角定規、分度器、裁縫セット、スペイン語辞典、とびなわ、鍵盤ハーモニカ、磁石、日記帳（低学年はます目、高学年は縦書きまたは横書き）など。

<中学生> 辞書（国語・漢和、英和・和英、西和・和西）、色鉛筆、コンパス、デイバイダ、三角定規、定規、裁縫道具、カッター、彫刻刀、水彩用具一式、ポスターカラー、面相筆、たて笛、五線譜など。

(2) 現地校、外国人学校

CICの入学手続きに必要なものは、日本の在学証明書および英語の成績証明書で、入学時に簡単なテストがある。

費用として入学時に、学年によって異なるが約5,400ドル（約70万円）が必要である。年間の授業料も学年によって約4,300～11,000ドル（約60～150万円）と異なる。そのほかスクールバス代が月額100ドル（1万4千円程度）、補習授業料が月謝の5～10%必要である。

(3) 幼稚園

「Mi Casita Blanca」の入園手続きは、所定用紙に必要事項を記入し、入園登録料、用具代、保険料を支払う。授業料は年額を毎月分割して支払う。スクールバスの利用を希望する場合には、このほかにスクールバス代を支払う。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

<国立図書館> (Biblioteca Nacional)

所在地：Esq. San Francisco, Nuevo Circo

（ただし、近い将来 Foro Libertador に移転の予定）

電話：415823

<カラカス会員制有料図書館> (Caracas Circulating Library)

所在地：Calle 4, No.3, Campo Alegre

<ヴェネズエラ・アメリカ・センター図書館>

(Libreria de Centro Venezolano-Americans)

所在地：Quinta Centro Venezolano-Americans, Calle Cerro Quinters,
Las Mercedes

電話：912744, 912966

<フンボルト文化協会図書館> (Libreria de la Asociacion Cultural de Humboldt)

所在地：Edif. Pigalle, Av. Leonardo Da Vinci, Colinas de Bello Monte

電話：7522091, 7522055

<ヴェネズエラ中央大学> (Universidad Central de Venezuela)

所在地：Los Chaguaramos, 1041-A (Apartado 47114)

電話：619811

<ヴェネズエラ技術者協会> (Colegio de Ingenieros de Venezuela)

所在地：Los Caobos (Apartado 2006)

電話：5713268, 5733631

このほか、日本人学校、日本人会事務所、日本大使館、ジェットロ・カラカス事務所に日本の書籍類が多少あり邦人子弟も利用できる。

(2) スポーツ施設

当地でもっとも人気のあるスポーツは、野球とサッカーである。中でも野球は大変人気があり、各主要都市にそれぞれプロ球団もある。ナイターは多数の観客を動員しており、草野球や少年野球も盛んである。その他には柔道、空手、テニスなども盛んで、ヨガ、ジャズダンス、エアロビクス、スキューバダイビング、乗馬などの各種教室も開かれており、およそあらゆるスポーツを楽しむことができる。

これらのスポーツをいつでも気軽に楽しむ施設としては、各種の民間クラブがある。テニスクラブ、ゴルフクラブ、ヨットマリーナクラブの3つに分類され、いずれもそれぞれのメイン施設を中心にプール、遊園地、レストラン、クラブハウスなどを持っている。これらすべての施設を有する総合レジャークラブもある。したがって、いずれかに所属すれば家族やグループで楽しむことができる。ただし、会員権はいずれも高い。テニスは San Luis のパブリックコートやインターコンチネンタル・タマナコのコートを時間制で利用することもできる。また、ロス・パロス・グランデスやパルケ・セントラルのスイミングプールも利用できる。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

スペイン語、英語、ピアノ、バイオリンなどの家庭教師はある。スペイン語の場合、邦人間の口コミで探すことが多い。

(2) 通信教育

民間機関の通信教育がある。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

日本語の本などは市内の書店では入手できない。問題集や参考書なども当地で購入することは不可能なので、滞在期間中の各学年、各教科のものを用意した方がよい。月刊雑誌や各種書籍類は、下記の OCS 代理店を通じて常時入手可能である。ただし高価（日本での入手価格の4～5倍）である。

<児玉商会> (Representaciones Kodama)

所在地：Edif. Lucy, Local 1-P.B., Fe a Esperanza, Parroquia San Jose

電話：5621283, 5611490

FAX：5611490

国語辞典、英和・和英辞典、西和・和西辞典は、最低限必要である。さらにインターナショナルスクールおよび現地校へ通う子弟は、科学用語辞典があると便利である。

運動具（とびなわ、テニス用具、卓球ラケット、ボールなど）および各種スポーツウェア、水着などは品質や好みなどを別にすれば、当地で豊富に市販されている。しかし品質の割には高価である。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

家政婦／夫（「セルビシオ」と呼ばれている）の多くは、近隣国（コロンビアなど）からの求職者である。ほとんどの高級アパートや独立家屋には、セルビシオのための部屋（トイレ、シャワー付き）がついているほど、雇うことが一般的になっている。特に、小さい子供の世話を任せるケースが多い。賃金は安い。

邦人の家庭では、週に1~2度、掃除を中心とした家事のために女性のセルビシオを雇う場合が多い。小さい子供のいる家庭や独立家屋に住む場合は、住込みで雇うこともある。

6-2 運転手

(1) 雇用

運転手を雇うことには多くのメリットがある。

第一に、交通信号のない交差点が多く、ここを毎日無事に通過するにはかなりの慣れを要すること。第二に駐車場の少ない市内に於いていつでも車を乗り捨てできること。第三に郵便物の発送、電話代の支払い、買物など、細かな用事を任せられるため専門家の業務時間を犠牲にしなくて済むことなどの点が挙げられる。

しかし、気の利いた運転手を探すことはなかなか難しく、この点が運転手を雇う邦人が少ない理由と思われる。

雇用に際しては、面接のほかには身元確認のための住宅の確認や親族との面会を行い、また、無犯罪証明書や元の職場からの推薦状を持参させたりするが、これらが決定的なものになるとは思われず、ないよりましという程度である。

給料は週5日勤務で月3万5千円程度であるが、一般的に週給制を好むようである。

(2) 日常管理

契約書は特に取り交わす必要はない。予め休日手当、時間外手当を決めておき、毎週末に給料と合わせて支払うようにする。運転手にも携帯電話を持たせると利便性が高い。但し、この場合、毎月の使用料請求書のチェックを怠ると、膨大な請求を受けることになるので注意を要する。ガソリン代や修理代などは、領収書をきちんと整えさせてから支払うという日常管理は不可欠である。

(3) 教育指導

運転手に対し、日常から使用人としてけじめを付けた接し方が必要である。友人扱いをしたために勤務態度が悪化したなど、失敗した例もある。

(4) その他の留意点

ラテン系の人自身は自身の非を認めるということをなかなかしないようである。何か問題を起こした場合でも責任追求のようなことは止めておいた方よい。また何かいい訳を言っている、という程度で聞き流すことが賢明である。

運転手に対しては、親しみと信頼の表現も必要であるが、雇用人と使用人のけじめが何よりも大切である。

6-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

通常は1人で、仕事に厳密な区切りはなく掃除を中心に皿洗い、洗濯、料理、子守、

子供の幼稚園の送り迎えなど、幅広く従事してくれる。雇用の際に説明しておくこと。

(2) 雇用

斡旋業者に依頼したり新聞広告で探す方法もあるが、邦人宅で働いたことのある人を、帰国する人から紹介してもらう、もしくは既に邦人宅で働いている家政婦／夫に身内の人を紹介してもらうなどが一般的な方法である。

雇用するには面接を行って決めるが、「身分証明書（セドラ）」のコピーはとっておくこと。また、家政婦／夫は自宅に電話を持っていない人がほとんどなので、緊急連絡のために曜日ごとの働き先とその電話番号を聞いておくことよい。

一般的に契約書は作成しない。

週1～2回の通いの場合、日額は5,000～7,000 ポリバル（1,250～1,800 円）で、その日毎に支払う。勤務時間はだいたい8:00～16:00 である。超過勤務手当は1時間600～1,000 ポリバル（150～250 円）、1 晩泊まってもらくと1 日以上である。ボーナスはクリスマスに1 ヶ月分を渡す。朝食と昼食には材料を提供する。

勤務日が祭りにあたった場合や病欠の場合、また雇い主の都合で休みにする場合などの手当をどうするか決めておいた方がよい。雇い主の都合で休みにする場合は日当を支払っている邦人が多い。

住込みおよび毎日（週5日）の通いの場合、月額は120,000～140,000 ポリバル（2万5千円～3万5千円）で、独立家屋はこれより高くなる。給料の支払いは通常15日と月末で、ボーナスはクリスマス前に1 ヶ月分を渡すか、働き始めてから1年ごとに出す。普通はクリスマスから正月にかけて休暇とする。

(3) 日常管理

一番大切なことは、嫌だと思ふことははっきりと口にすることである。しかし、相手の態度をあまり当てにせず、且つ、諦めることなく付き合うことが肝要である。

指導事項として出勤時間の厳守、仕事が済んだからといって勝手に帰宅しないこと、水を使い分けること、家の内と外の区別をつけること、洗濯の仕方、掃除用具の区別などが挙げられる。料理の場合は手を洗うことと、塩分の入れすぎに注意する。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

ほとんどの邦人はアパートに住んでおり、庭師、ガードマンはアパート側が雇っているため個人で雇う必要性はほとんどない。独立家屋の場合は家主に依頼するのが一番良い方法である。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

一般の交通手段はタクシーである。夕方と雨の日以外は不自由しない。

タクシーにはメーター付きとそうでないものがあり、後者の場合は、乗る前に目的地までの料金を交渉した方がよい。メーター付きのタクシーはチップは特に必要ない。車体は非常に傷んでいるものが多いが、市内の走行には特に問題はない。

タクシーは数時間或いは1日中利用することも可能である。カラカスヒルトンなどに停まっているメーター無しの高級タクシーは、一般にこれに応じる。料金は先に話し合う。また、一般に料金は夜間および日曜日・祭日は割増になっているので、メーター表示額の20%増しの額を支払うことになる。流しのタクシー (Libre) は、料金が非常に高いことがある。また、防犯上から女性のひとり乗りや夜間の利用は好ましくない。各町には電話タクシー (Linea de Taxi) があり、それが何台か停車している場所がある。流しのタクシーよりも少し割高であるが、安全である。電話でアパートまできてもらうこともできるが、営業時間は通常7:00~19:00である。

早朝、空港に出向く際には「Tele Taxi (TEL: 7529122, 7524155)」或いは「Movir (TEL: 5737111, 4533) に前日予約しておく」と、来てくれる。また、マイケティア空港 (シモン・ボリーバル国際空港) では、タクシーの運転手が客の呼び込みをしており、安い料金の車を選ぶこともできるが、協定料金でチケットも売っている。

鉄道は旅客用はなく、カラカス市内に地下鉄があるのみである。道路の渋滞時に都心を移動するのに便利である。この地下鉄はフランス製の近代的なものであり、駅舎内も管理されており清潔である。最低料金は220ポリバル (55円程度) からである。

メトロバスは地下鉄の駅を中心に走っている路線バスで、バス停ごとに乗り降りできる。地下鉄と同じ料金で安心して乗れる。

長距離バスも多数あるが、安全面であまり推薦できない。すなわち、強盗の危険性と車のメンテナンス不備などによる事故の危険性で、特に事故はしばしば起こっており、多くの犠牲者が出ている。このバスは一般に、各都市のターミナル間をつないでおり、カラカスの発着地はTurmedito (Via Las Mayas) である。

このほかに「ポールプエスト」という乗り合いバスがあり、市内の決められた路線を走っている。料金が安く、停留所以外でも停止して乗り降りできるので便利である。明るい間ならば危険性も感じられない。料金は距離によって異なるが、12ポリバルからである。

道路網は比較的よく発達している。しかし、道路のメンテナンスの行き届いていないところが多く、路面のデコボコや橋との連結部分の不整合、急に幅の狭くなる場所など、運転時には特に注意を要する。夜間は安全面からも防犯上からも走行しない方がよい。たまに地方の道路では、大型トラックが橋に衝突するなどして橋が落ちることがある。

国内航空網もよく発達している。ただし、発着時間がかなりルーズなので、緊密なスケジュールを組むことはできない。操縦は上手であり、機材のメンテナンスも問題ない。

なお、地方都市などでは当外務省発行の公用旅券所有者用の身分証明書 (カルネ) を知らない警官がいることもあり得るので、質問された場合には、日本政府から技術協力にきていることを説明すること。

(2) 自家用車を利用する場合

交通法規は一応あるが、基本的には「歩くように進む」といった感じである。

車窓から手を出しさえすれば割り込みは自由自在、駐車するためにほかの車を止めて悠々とバックしたり、一方通行も反対車線走行も臨機応変である。また、方向指示

器を使用する人は少なくもっぱら手信号が使用されている。一見無秩序のようにもみえるが、慣れると日本よりも運転しやすいところがある。ただし、女性ドライバーには注意する必要がある。

信号のない交差点が多いので、常に前後左右に注意を払い、変な動き方をしている車には近づかない、もしくは追い越してしまうなど、なるべく危険から離れるようにすることが肝要である。また、車やバイクが急に飛び出してくることや、合図も出さずに車線変更するというようなことを、経験と勘によって常に予測できるように心がけておくことも重要である。

バイクは「モトリサード」と呼ばれるメッセンジャーボーイが非常に多く利用しており、車の間を縫うようにして通行するので注意が必要である。接触事故などを起こすと、通りがかりのバイクが数十台も集まって事故車両をとり囲んだりする。

日曜日・祭日、特に年末や謝肉祭、復活祭など、また平日でも夜中などは泥酔状態で運転している人も多く、特に注意が必要である。

また、万が一のことを考えてガソリンはいつも余裕を持って入れておく。ガソリンメーターが半分を示したら、すぐに補給する習慣をつけた方がよい。ガソリンスタンドは日曜日・祭日でも、必ずどこかの店が（交代で）営業している。

一部の地方道は単調な直線道路で、対向車線も少なく、ついつい速度が出がちになるが、時速 120 キロメートル以上で長時間運転するのは避けた方がよい。昼間は直射日光で路面がかなり熱くなっており、高速で走っているとタイヤが過熱して破裂する危険性がある。そのため地方へ出る時には、スペアタイヤのチェックはもちろんのこと、予備のファンベルトなども常に所持し、応急処置ができるように準備しておく。また、車は定期的に信頼できる整備工場に入れ、ブレーキやエンジン、ハンドル系統などに異常がないかを調べ、悪いところがあればすぐに修理しておく必要がある。車検制度が無い場合メンテナンスが不備になりがちであるが、これは自分自身で補わなければならない。

不幸にして走行中に故障した際には、都市部や幹線道路の場合はタクシーのように流しているレッカー車（グルア）が来るのを待つ。なかなかこない時は、ほかの車を止めて呼んでくれるよう依頼する必要がある。

(3) レンタカーなどを利用する場合

レンタカーは大抵の都市にあり、空港や大きなホテルなどで借りられる。カラカスで主なものは次のとおりである。

AVIS	TEL : 2612077, 2614125	TELEX : 24438
Budget	TEL : 2834333, 2840023	
National	TEL : 2391134, 2393645	
Hertz	TEL : 727255, 719378	TELEX : 21283

レンタカーを借りる場合にはクレジットカードが必要である。VISA などを持っているとよい。クレジットカードは担保のようなもので、返却時に現金で決済することも可能である。

基本料金は日本よりも安いですが、走行距離に基づく料金は高い。ガソリン代はほとんど気にする必要はない。中型乗用車で約 300 キロメートルが給油の目安である。

なるべく新車に近いものを借りた方がよいが、新しいからといって故障が少ないとも限らないので常に用心が必要である。選択が可能であれば外観やタイヤ、エンジンルームの点検、試運転などを行いなるべく良さそうな車を選ぶ。また、レッカー車があまり通らないような田舎道はなるべく走らない方がよい。

レンタカーのほかに団体旅行のためのリムジンバスもある。連絡先は次のとおりである。

Rally Tours

住 所：Edif. Galipn, Piso 7, Av. Fco. de Miranda, Chacao

電 話：9511390, 9511408

(4) 道路地図

簡単なものはガソリンスタンドで販売されており、片面にヴェネズエラ全図、もう片面にその地方都市の中心部が印刷されている。ヴェネズエラの道路網はあまり複雑ではないので、このような地図でほぼ事足りる。

もっと詳しいものではセグロス・プログレス保険会社の「Guia Progreso」があり、地方情報なども記載されている。地方情報のより詳しい内容は「Guia」に紹介されており、これはどこの書店でも購入できる。カラカスの市内地図は電話帳の巻末のものがいちばん詳しい。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

事故が発生した場合はどういう状況下でも車は移動せず、「167 番」の Transito および保険会社に電話する、もしくは巡回の交通警察がくるのを待つ。警察による事故証明がないと保険金は支払われないため、事故現場は事故当時のままにしておかなければならない。高速道路であろうと、道の真中で他の車の走行に重大な支障を及ぼそうと、この原則は守らなければならない。このため渋滞が非常に頻繁に起こる。

人身事故を起こした場合は、その理由のいかんにかかわらず留置所に拘置され、事務処理が始められるまでの約 1 週間は、外部と連絡をとることもできないといわれている。歩行者をはねるようなことは絶対ないように注意しなければならない。

(2) 救急病院

地方都市に 1 ヶ所は必ずある。場所は、その地方の住人に聞けば教えてくれる。カラカスで邦人が利用しているのは、クリニカ・アビラ（電話：2081111）およびクリニカ・メトロポリターナ（電話：9080100, 9875222）である。また救急車は「4-2 医療事情」の項を参照されたい。そのほか、Caracas (TEL：312222)、Silva (TEL：337723, 327182) などもある。

(3) 盗難

車または車内のエアコン、カーステレオなどの盗難が多い。対策として警報機や、ブレーキとハンドルを固定する錠の設置が必要である。有料駐車場やアパートの駐車場でもカーステレオなどが盗難にあうので、日頃から車内やトランクのなかに貴重品などは置かないようにすること。

自動車盗難にあってしまった時は警察に通報し、保険会社にも連絡する。ときによって警官が現場に来ないことがあるので、その際には自分で警察に届け出る。警察

からは「犯罪被害届出証明書 (Cuerpo Tecnico de Policia Judicial)」を必ずもらうこと。車が見つからない場合には保険金が支払われる。しかし、車がどのような状態であっても発見されると保険金は完全には支払われないことがある。

また、違法駐車などをしていると警察当局の手でレッカー車により移動される。普通は路面にその旨を記されるが、何も記されないこともある。その時はまず近所の店や飲食店などに聞いてみるのがよい。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

ヴェネズエラは国際自動車交通条約の締結国なので、基本的な交通法規や道路標識は日本と同様である。しかし、日本にはない道路標識にもいくつか出くわすことがあるので、可能であれば自動車学校の教材などを入手し、勉強した方がよい。

また、カラカス市内などは一方通行道路が非常に多く、標識が見当たらないこともあるので車の流れなどには常に注意し、通行可能かどうか確認しなければならない。駐車している車の向きはかなりいい加減で、一方通行などの判断には役に立たない。ヴェネズエラではロータリー（「レドーマ」と呼ばれる）が多くあり、通行には注意すること。

ヴェネズエラで車を運転する時は、運転免許証（5年有効）、循環証明書（1年更新）、健康証明書（1年更新）の3つの証明書の携行が義務づけられている。

循環証明書については「ラップ (RAP)」と呼ばれる車の登録制度があり、毎年更新し証明書とナンバープレートに張るシールをもらわなければならない。これがないと罰金が科される。登録月は自動車の購入月と同じで、必要書類は郵便局で購入する。銀行に手数料を納め、タイプした必要書類を郵便局のラップ係に提出する。提出後1ヶ月程度で、シールと循環証明書を郵便局で受け取れる。

健康証明書については、視力（裸眼または矯正後で両眼とも0.6以上）、色盲検査、血圧測定などを受けて医師の証明書もらう。これは免許証を取得する際にも必要である。診療所は、Centro、Edif. Camejo、Country Club、El Bosque、Las Mercedes、Monte Cristo、Centro Comercial Los Dos Caminos、Prados del Este、Edif. La Piramideにある。受付時間は月～金曜日の8:00～20:00、土曜日は9:00～12:00である。

(2) 対処方法

一般に交通違反で取締りを受けることは少ないが、幹線道路などで警官が常時監視しているところがあり、車線変更違反や低速車線での高速走行などを取り締まられることがある。速度違反は少なく、一般道路での追い越し禁止は事実上ない。

クリスマスシーズンには取締りが厳しくなる傾向にあるので、駐車違反などは特に注意を要する。

7-4 車の修理

(1) 部品

当国以外で生産された車の部品は入手が非常に困難である。ものによっては輸入禁止品目にあたるため入手できないこともある。したがって、これらの輸入車のメンテナンスはほとんど不可能と言っても過言ではない。

(2) 修理工場

技術水準は比較的高い。ほかの物価に比べてコストは高いが、細かい部分までよく分解して修理しており、エンジンのオーバーホールができることもある。知人を通して信用できる工場を選び、早く工場の人と親しくなるとよい。常時その工場を利用することが肝要である。

ルノーやフィアットなどはそれぞれ専用工場があるので、できるだけそこを利用した方がよい。専用工場はコストは高いが、少なくとも信用はある。しかし専用工場間でもサービス、修理の善し悪しがあるので、よい修理工場を探す努力は必要である。

8. 通信

8-1 電話

(1) 一般事情

個人用の電話はだいぶ普及してきているものの、まだ不足状態である。公衆電話は少ないうえにメンテナンスが悪い。電話公社 (CANTV) のサービスは非常に悪く、故障すると修理に数週間はかかる。その割に料金滞納時には迅速に回線を切る。CANTV 側の手違いで請求書が手元に届かなくても、納期限の 15 日後には一方的に切られるので、支払日は常に注意しておく必要がある。請求がこない時は CANTV の窓口に行き、再発行してもらう。手違いで切られた時も同様に CANTV へ行く。しかしこの場合、なかなか復旧されない。なんらかの事情で回線を切られた場合、その地区を管理している CANTV の事務所に行き、回線の復旧を依頼する。管轄以外の事務所に行っても復旧作業をしてくれないので注意すること。

請求書は 1 ヶ月単位で、1~2 ヶ月前の利用分がアパートの郵便箱に届けられる。料金は銀行窓口もしくは CANTV の支店で支払う。国際通話の場合、請求書に相手の電話番号、通話時間も印字されている。銀行などで料金を支払った場合、請求書に領収印が押される。この領収証は支払ったというただひとつの証拠書類なので、大切に保管しておく必要がある。またこれらの領収証は、アパートを引越す際に家主に引き渡すことになっている。通常 5~6 月頃に各 CANTV の事務所で電話帳を配布するが、その際にいちばん新しい領収証と引き替えに、その電話帳を受け取ることができるからである。

(2) 国内電話

どこへでも直通でかけることができるが、回線数が不足している為なかなかつながらないことがある。

料金は、1 ヶ月 180 度数までが基本料金で、これを超過すると 1 度数当たりの料金が加算される。

(3) 国際電話

直通でかけることができる。

日本へは、まず「0081」を回し、日本国内の市外局番の最初の 0 をとったもの (東京なら 03→3、札幌なら 011→11)、そのあとに相手の番号を回せばよい。これもすぐにはなかなか繋がらないが、何度か続けて試しているうちに大抵繋がる。日本と

の時差は13時間で昼夜が逆なのでかける時間帯に注意すること。クリスマスなどは回線がふさがり連絡がつかないことがある。

料金は、日本へは1分当たり1,750ボリバル(約440円)で1分単位で徴収される。夜間は1分当たり1,320ボリバル(約330円)である。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

15万~20万ボリバル(4~5万円)程度で購入できる。日本との通信などが確実に早くでき、経済的なので便利である。

(2) テレックス

テレックス網は発達しており、官庁の公文書や企業間の連絡に活用されている。次のところでテレックスを打ってもらうことができる。

Oficina Publica de Servicio Telex Internacional

住所: Centro Plaza, Nivel Mezzanina, Av. Fco. de Miranda, Los Palos Grandes

電話: 2847923

営業: 月~金曜日 7:15~19:15

(3) 電報

郵便局で扱っている。

料金は単語単位で10文字を超える単語は10文字ごとに1単語として数える。7単語以下は7単語の料金として扱い、50単語まで1単語単位で料金が決められている。また、自宅から電話(4624055番)で電報を打つこともできる。

(4) インターネット

当国でインターネットを始めるには、当国でのネットワークサービスに接続を申し込むのが妥当である。ネットワークサービス会社はいくつかあるが、CANTV(電話会社)とT-NET(携帯電話サービス会社)がよく利用されている。CANTVは比較的安価であるが、海外の情報受信に時間がかかるようである。一方、T-NETの方は海外の情報受信時間が速く、また、クレジットカードによる日本の口座引き落としができるので便利である。

T-NETの申し込みは携帯電話サービス会社(TELCEL)の事務所で行う。その日の内にインターネットを始めることができるが、操作ソフト(Explorerなど)の設定方法をT-NETの保守サービスに電話で確認し、行う必要がある。

料金は、20時間/月、Explorer使用で18,000ボリバル(約4,500円)程度(税込み)。

T-NET事務所は、ロス・パロス・グランデスのカナイマ・ビル1階(パルケ・クリスタル・ビルの隣)

なお、モデムは当国で簡単に購入できる。

8-3 郵便

(1) 一般事情

日本から郵便物を発送する時は、輸入禁止品目、特に食料品や医薬品などが入っていると通関が困難または不可能なことがあるので注意を要する。また、日本からの小包は盗難や紛失の可能性があるので、郵便税関の手続、税金支払いなどからも個人的に送付してもらうことは極力避けた方がよい。小包の約30%が手元に届かなかった

り、きれいな絵ハガキや切手などは配達途中で紛失することもある。また発送から1年経過した後に手元に届くなど、たまにはあるが到着が非常に遅いこともある。

郵便物の宛先は大使館気付にしておくことが一番安全であるが、大使館に取りに行く必要がある。大使館あての場合1~2週間で到着しているが、確実に届く保証はない。自宅宛てにすることも可能である。

日本への手紙なども1~2週間で到着している。これらは一般に、郵便局に直接持って行って出しており郵便ポストなどは利用しない。小包は白い布で包み紐（ヒモ）をかけて出す。封書も小包もセロテープやガムテープを使用したものは発送できないので注意すること。1キログラム以上20キログラムまでのものは大きな郵便局で扱っている。当地から出す場合も日本からの郵便物を受け取る場合も確実に届くとは言いきれないので、大切な書類はファックス、もしくはOCS（DHLもあるがOCSの方が手続しやすく経済的である）を利用した方がよい。日本へ送付する際の郵便料金は、日本の郵便料金よりも高い。

切手は種類が少ないため何枚も組み合わせる必要がある。スペースが不足する場合は重ねて貼るかもしくは印字機で全額直接印字してもらうとよい。

中央郵便局

所在地：Carmelitas

電話：823326

郵便料金は次のとおりである。（1998年9月現在）

	重量	料金	円換算
はがき		350 ポリバル	90 円
封書	20 グラムまで	820 ポリバル	205 円
	20~50 グラム	1,640 ポリバル	410 円
	50~100 グラム	3,964 ポリバル	990 円
	100~500 グラム	7,810 ポリバル	1,950 円
	500~1,000 グラム	14,320 ポリバル	3,580 円
	1,000 グラム~500 gにつき	6,408 ポリバル	1,600 円
小包	100 グラムまで	2,389 ポリバル	600 円
	100~ 500 グラム	5,895 ポリバル	1,475 円
	500~1,000 グラム	11,883 ポリバル	2,970 円
	1,000~2,000 グラム	23,700 ポリバル	5,925 円

なお、長距離バスに、各地のバスセンター止めで郵便物や小包などを依頼することができ、郵便局よりもはるかに速く信頼性も高い。

(2) 課税

小包以上のものは通関が必要である。郵便物が届いた旨のハガキが届いたら、それを郵便税関（所在地は Cano Amarillo で、地下鉄の駅が近くにある）へ持参し、手数料および税金を支払って引き取る。この手続には半日ほど要する。

免税手続を行うことにより大抵の品物は引き取ることができるが、原則として個人

の使用に供するものに関しては、大使館は免税申請を受理しない。したがって携行機材以外の輸入禁止品目（医薬品、機械類など）は引き取ることができない。

専門家が郵便税関に小包を受け取りに行く場合には、大使館が作成した税関宛ての手紙が必要なので、事前に大使館の担当者に作成してもらうこと。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

新聞は全国紙として

「El Universal」……………有力紙

「El Nacional」……………有力紙

「El Diario de Caracas」……タブロイド版

「The Daily Journal」……………英字新聞、タブロイド版

「El Mundo」……………夕刊紙

「2001」……………夕刊紙、スポーツ芸能紙

がある。このうち「El Universal」と「El Nacional」が代表的なもので、ページ数も多い。「El Diario de Caracas」と「The Daily Journal」はタブロイド版でコンパクトにまとまっており、ヴェネズエラ国内と国際情勢の動きを知るうえで好適である。各紙とも1部200～250ボリバル（50～60円程度）である。

なお、月刊誌や週刊誌では「Numero」や「Resumen」などがある。

(2) 本邦日刊紙

本邦日刊紙は、OCSのカラカス代理店である児玉商会が取り扱っている。ニューヨークからの『朝日新聞』国際衛星版の購読料は、1ヵ月147ドル（約2万円）である（1998年9月現在）。現地通貨による支払いで、通常3ヵ月分または6ヵ月分を前払いする。オフィスまたは個人の私書箱に2～3日遅れで配達してもらえる。

(3) 欧米紙

欧米系の月刊誌や週刊誌としては、アメリカの「Time」や「Newsweek」などが毎週入荷している。

新聞や雑誌類は市内の辻々にある「キオスコ」と呼ばれるスタンドで売られており、6:00から18:00～19:00頃まで開いている。宅配の制度はないが、個人的に依頼すれば持ってきてくれる。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

国営と民営の放送局があり、主要都市には多くの小局がある。カラカスにはFM局が15局以上、中波局では国営放送1局のほか、多数の民間放送局が存在している。国営ラジオ局（Radio Nacional）は教育番組とニュース報道に重点をおいており、中波および短波で放送を行っている。民営ラジオ局の主なものは、「Radiofonica Nacional」や「Rumbos」で全国ネットで放送されている。

(2) ラジオジャパン

日本からの短波による日本語放送（東京発）は、次の時間帯と周波数で聴取できる。

4:00～6:00 9530 キロヘルツ（フランス領ギアナ経由）

11:00～12:00 15310 キロヘルツ（フランス領ギアナ経由）

18:00～19:00 11895 キロヘルツ（フランス領ギアナ経由）

22:00～23:00 17835 キロヘルツ

23:00～24:00 9660 キロヘルツ（フランス領ギアナ経由）

周波数および時間帯はときどき変わるので、NHK に問い合わせる放送リストを送ってもらうとよい。

NHK 国際局編成部

住所：〒150-8001 東京都渋谷区神南 2-2-1

電話：03-3465-1111

インターネットによる番組表を含む情報提供サービス

<http://www.nhk.or.jp/rjnet/index-j.html>

FAX による日本語放送の周波数表サービス

FAX サービス番号：03-5454-0888

情報番号：260

またエクアドル発信の中南米地域向け日本語放送「アンデスの声」は、6:00～7:00 に 15280 キロヘルツで聴取できる。受信には短波ラジオが必要である。ラジオのアンテナのみでは聴きづらい場合もあるので、室内アンテナ程度は設置した方がよい。

(3) 聴取可能なその他の外国放送

BBC は中波バンドで聴取可能である。「The Daily Journal」に周波数と番組が毎日掲載されている。

アメリカからのものは短波放送であるが、常時いくつかの放送が聴取可能である。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

国営と民営の放送局があり、放送時間は早朝から深夜に及び、内容もニュース、ニュース解説、ドラマ、スポーツ中継などと豊富である。また、朝の主婦向けのモーニングショーなどのワイド番組も人気がある。しかし、まだ自主制作される番組は少なく、アメリカから輸入されたテレビ映画の占める割合が大きい。日本のアニメもシリーズものとして継続的に放映されている。

(2) テレビ受信

テレビの受信はカラー、白黒ともに可能である。また、受像機は日本から持参しても特に問題はないが、当地でも豊富に市販されている。

最近では、静止衛星からアメリカのテレビ番組を直接受信するためのパラボラアンテナがついているアパートが増え、国内局と合わせて10局以上楽しむことができる。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

市内だけでも 30 以上の映画館があり、ドライブインシネマもある。一般的に 19:00 以降は 12 歳以下の子供の入場を禁じている。

主な映画館は次のとおりである。

なお、入場料は大人が約 2,000~3,000 ボリバル (500~750 円) で、上映フィルムは各新聞紙上に毎日載っている。

Altamira

住 所: Edif. Teatro Altamira, Plaza Altamira, Av. Avila Sur
Autocine Prados del Este

住 所: Av. Jose Maria Vargas, Santa Fe
Broadway Uno, Dos, Tres

住 所: Calle Real de Sabana Grande

Centro Plaza

住 所: Centro Plaza, Av. Francisco de Miranda, Los Palos Grandes
Cinema Uno, Dos, Tres (3 館)

住 所: Centro Comercial Chacaito, Chacaito

Cine Lido Uno, Dos

住 所: Av. Francisco de Miranda, Centro Comercial Lido

Multicinema CCCT

住 所: Centro Ciudad, Comercial Tamanaco, Chuao

Concresa Multiplex

住 所: Av. Caura, Dist. Prados del Este Centro Comercial Concresa

Cineplex Sambil

住 所: Av. Libertador, Centro Comercial Sambil

Humbolt-Multicine

住 所: Av. Rio Caura, Centro Comercial Parque Humbolt

Sambil Multiplex

住 所: Av. Libertador, Centro Comercial Sambil

(2) 劇場

市内だけでも 20 以上あるが、主な劇場は次のとおりである。

Arte de Venezuela

住 所: Galeria de Arte Nacional, Plaza Morelos, Los Caobos

Teatro Cantv

住 所: Av. Libertador

Chacaito

住 所: Centro Comercial Chacaito

Teatro Fedecamaras

住 所: Av. El Empalme Calle El Carmen, El Bosque

Teatro Municipal

住 所：Esq. Municipal (Oeste 8 y Sur 47), El Silencio

Teatro Nacional

住 所：Esq. Los Cipreses, El Silencio

Teatro Ocho

住 所：Calle La Hipica, Las Mercedes

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

定期刊行物や各種書籍の出版活動は行われており、街にも数多く出回っている。書店は多く、各ショッピングセンター内に必ず数軒ある。また、限られた書店では英語の各種雑誌や書籍なども入手できる。週刊誌、月刊誌、市内地図、観光案内書など簡単なものは「キオスコ」で購入できる。

(2) 書店

輸入洋書（英語）は主に次の店で入手できる。

American Bookstore

住 所：Edif. Belveder, Av. S.J. Bosco, Altamira

電 話：331140

English Bookshop

住 所：Centro Comercial Concreta, Local No.315, Piso 1, Prados del Este

電 話：9791308

Libreria Las Mercedes

住 所：Edif. Automercado, Av. Principal de Las Mercedes, Las Mercedes

電 話：929742

洋書およびスペイン語の専門書、一般書は次の店が広くて地理的にも利用しやすい。

Tecni Ciencias Libros

住 所：S.A. Torre Phelps Mesanina, Plaza Venezuela

電 話：7819945

専門書（英語、スペイン語とも）のみに限れば、タマナコ・ショッピングセンター内にある「Tamanaco Libros Tecnicos」（電話：2613344）が利用しやすい。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

代表的なものに次のような学校がある。

Centro Venezolano Americano (CVA)

住 所：Las Mercedes

電 話：7527511

8コースあり、各コースとも授業は1.5時間×19日授業（約1ヵ月）で、土・日曜日を除き毎日ある。授業料も安く、内容もしっかりしている。

入学方法は学校の受付で詳しく説明されるが、可能であれば、知っている邦人に同行してもらい手続方法などを聞いた方がよい。地下鉄のチャカイト駅から歩いて10分のところにある。

Berlitz

住所：Las Mercedes 電話：7527265
住所：La Urbina 電話：2410693
住所：Andres Bello Edif. Fondocomun 電話：5736509

English Lab

住所：Av. Romulo Gallegos, Edif. Klm Nezzanina (detras del Cafetin)
電話：2841777

BerlitzおよびEnglish Labともに、スペイン語は1コースのみで100レッスンの個人授業である(1レッスンは45分間)。授業開始日および時間帯は自由に決められる。支払いは3回払いである。また英語も学習することができる。

この他にも「CCDI」(TEL:2842534)など小規模の学習施設が多数あり、時間当たりの料金は総じて「CVA」よりは高く「Berlitz」よりも安い。

(2) 家庭教師

スペイン語、英語ともに家庭教師は新聞広告や語学学校からの紹介、あるいは邦人間の情報などで容易に得ることができる。また語学教師の家庭へ行き、学習することも可能である。

料金は時間当たり6,000~8,000ボリバル(1,500~2,000円)が一般的である。日本語のわかるエニード・ペレラ先生(女性)は、教え方も上手で評判がよい。マクダレナ先生(女性)も日本語をある程度理解している。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

各種展覧会、国際・国内博覧会、催し物などは市内の各所で頻繁に開かれている。国際見本市では、例えば日本の電気製品、光学機器など、イタリアの革製品、既成服、アメリカの自動車から家電製品に至るまで規模は大きい。国内のものでは農業展、家具展、革製品展、鉱物展、機械展などがあり、ときには即売会も行われる。地方州においても同様、あるいは類似のものが毎年開かれている。有名なものでは中南米諸国が中心となって催す農業、産業展の「Feria de San Cristobal」(タチラ州)と「Feria de Merida」(メリダ州)がある。また、祭りが中心になるものとしては、「Fiesta en Carupano」(スクレ州)や「Fiesta de Callao」(ボリバル州)などがある。

カラカス市内ではZona Rental Plaza Venezuela、Poliedro La Linconada、カラカスヒルトン、インターコンチネンタル・タマナコなど有名ホテルで開催されることが多い。なお、これらの情報は外務省、勸業省、経団連および新聞紙面で得られる。また小規模のものであれば、大型ショッピングセンター内で開かれることもある。博物館・美術館は市内に多いが、代表的なものは次のとおりである。

独立記念博物館 (Museo de Bolivariano)

住所：Entre Las Esquinas de San Jacinto y Traposos en Centro
開館時間：毎日9:00~12:00、14:00~18:00

自然科学博物館 (Museo de Ciencias Naturales)

住所：Parque Central
開館時間：毎日10:00~18:00

児童博物館 (Museo de Los Ninos)

住 所：Parque Central

開館時間：月・火曜日以外の 9:00～17:00

交通博物館 (Museo del Transporte)

住 所：La Carlota Frente del Parque del Este

開館時間：火・水・土・日曜日の 9:00～18:30

ベージャスアルテス美術館 (Galeria de Bellas Artes)

住 所：Entrada del Parque de Los Caobos

開館時間：月曜日以外の 9:00～12:00、15:00～17:30

現代美術館 (Museo de Arte Contemporaneo)

住 所：Parque Central

開館時間：月曜日以外の 10:00～18:00

動物園は市内に 3 ヲ所あり入場は有料である。規模の大きい順にあげると、次のとおりである。

Parque Zoologico de Caricuao

住 所：Caricuao

開園時間：月曜日以外の 9:00～17:00

Parque El Pinal

住 所：El Pinal

開園時間：月曜日以外の 9:00～17:00

Parque del Este

住 所：Av. Fco. de Miranda

開園時間：月曜日以外の 9:00～17:00

植物園には次のものがあり、入園は無料である。

Jardin Botanico

住 所：ヴェネズエラ中央大学内

開園時間：毎日 8:00～17:00

(2) 日本・友好協会などの有無と活動の内容

日本・ヴェネズエラ友好協会はないが、日本人会の活動の一部には両国の友好を目的としたものがある。

(3) その他の文化活動、文化施設

邦人が参加している文化活動に、アメリカ人を中心とした各国の女性達が集まる「Children Service League」(CSL)がある。週 1 回、火曜日に集まり手芸品をつくるなど、グループに分かれて活動し、できた作品を年 1 回のバザーで販売し、その収益を当国の子供のための施設や組織に寄贈している。

このほか、各国大使館がそれぞれ劇、映画の上映会を行うことがある。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

110 ミリ判・35 ミリ判・セミ判ともフジ、コダック、アグファなどのフィルムが簡単に入手できる。価格はフジ 35 ミリ判 36 枚撮りで 2,000 ボリバル (500 円) ほどで

あるが、店によっては多少のばらつきがある。スライド用フィルムは、コダック製品以外のものの入手は多少むずかしい。ISO (ASA) 感度は64~400がほとんどある。

DPE サービスはフジの最新機械が入っており、1時間のスピード・プリントができる。発色などの質は悪くないが、店によっては差がある。現像代、プリント代は日本より少し高い程度である。

カメラは一眼レフ・小型カメラともミノルタ、キヤノンが多く売られており、オートフォーカスが主流になりつつある。レンズ用フィルターはサイズが豊富に揃っていないため、日本で用意した方がよい。またボタン電池もどの店でも入手できるわけではないので、十分用意していくことが望ましい。オートフォーカスカメラでも、日本の新しいモデルは入っていないので、日本から2台くらい持参した方がよい。内1台は、海に行く機会が多いので水にぬれても大丈夫なカメラであることが望ましい。

(2) ビデオセット

ビデオカメラ、デッキとも日本製が多く売られている。ベータの方が多く出回っているが、VHSも特に問題になることはない。機器は市内の電気店で多く売られており、購入は容易である。また、デッキは周波数の関係から当地で購入することが望ましい。ソフトは多種類、多量に揃っている。スペイン語、英語のものが多く、邦画はまずない。各ソフト販売店にビデオクラブがあり、安価に各種のビデオが楽しめる。

日本からのビデオテープの送付は、無傷で届くこともあれば無くなったりすることもあり、100%の保証はない。

(3) 各種テープ

種類、量とも豊富であるが、テープが伸びてしまったり音質もあまりよくない。日本製のものはまったくみかけない。生テープは、種類は少ないが日本製のものが売られている。価格は、ソニー製の60分のもので1,000ボリバル(250円)前後である。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

音楽会、コンサートとも各所で多く催されている。国際的な音楽家や団体のヴェネズエラ訪問もあり、会場は最新設備を誇るテレサカレーニョ劇場(Entrada del Parque de Los Caobos)になることが多い。また南米音楽、民族音楽なども各劇場で毎日のように演奏されている。主な会場はTeatro Municipal、Teatro Nacional、Sala de Concierto、Teatro Fedecamaras、Teatro Cantvなどである。

入場券は当日でも、早い時間に窓口へ行けば購入できるが、前売券も「Don Disco」(Centro Comercial Chacaito、TEL: 729366)で入手することができる。

また、有名ホテルやレストランなどでも、国内あるいは近隣諸国の音楽家の歌や演奏が行われている。

(2) コーラス、演奏グループ

コーラス、演奏グループは多くあるが、プロあるいはセミプロクラスの団体に参加するにはオーディションが必要となる。邦人の間ではグループはない。

(3) ピアノなど

種類は多くないがヤマハや韓国製などが売られている。価格はヤマハの方が高い。新品の購入はロス・パロス・グランデス地区内およびエルマルケス・ショッピングセ

ンター内のヤマハ店で可能である。また中古も入手可能で、新聞紙上に情報が載る。レンタル、リースはない。

運送についてはピアノを横にして運んできたなどのケースもあり、信頼性が高いとはいえない。

調律師は購入先で紹介してもらえる。音楽学校は多くあり、また家庭教師も得ることができる。

(4) CD、レコードなど

国産品がほとんどであるが、種類・量とも豊富で販売店も多い。音質は日本のものに比べると劣る。

最近レコード店でCDを多くみかけるようになった。これらはすべて輸入品であり、品質の心配はないが高価である。また、CDプレーヤーも日本製のソニーやナショナルなどの商品が電気店で販売されており、購入は容易である。

オーディオセット（ステレオセット）はアメリカ製、日本製が多く売られており、当地でシステムを組むことができる。サンスイ、パナソニック、ソニー、パイオニア、アイワおよびアメリカのフィッシャーなどのメーカーのものが入手可能である。

(5) 民族楽器

民族楽器の種類は多く、代表的なものはクアトロ（ギターの小型のもので4本弦）、バンドラ（ギターとクアトロの中間の大きさのもので4本弦）、アルパベネソラーナ（32本弦の大型の竖琴）などである。学習施設、家庭教師については購入店や新聞紙上で情報が得られる。

有名な音楽院は、次のとおりである。

Escuela de Musica Jose Angel Lamas

住 所：Av. Urdaneta, Esq. Santa Cabilla 電 話：819628

Instituto Musical La Clavija

住 所：Sabana Grande 電 話：726406

(6) その他の楽器

販売されている楽器の種類は多く、それらのほとんどは輸入品で品質もよい。また学習施設も多い。

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

(1) 手芸

毛糸、刺しゅう糸、レース糸ともに輸入品、国産品があり、また販売店も多く、各ショッピングセンター内に必ず数軒あるため容易に入手できる。各道具類もそこで揃えることができる。ただし、ミシン糸、ゴムひもは良質のものを得るのがむずかしいので、各種各色を日本から持参した方がよい。

当国の代表的な手芸、民芸品は「グアヒロ族」の色彩豊かな壁かけ、籐のかご、木彫、ハンモックなどであり、土産物店で売られている。

(2) 絵画、美術工芸

水彩、油絵などの絵の具・筆・キャンバスなどの絵画用品が売られており、店も多い。また絵画販売店も多く、路上でも売られている。適当な販売店は各ショッピングセンターおよび有名ホテルの売店である。

10-8 趣味

(1) 園芸

種苗店、植物店は多くあり、各種植物の種、苗、鉢植えが購入できる。しかし、カラカスでは治安などの面からアパート住まいになることが多いため、栽培は限られたものになる。なお日本野菜などの種、苗の入手はほぼ不可能である。しそ、三つ葉、万能ネギなどの種を持ってくると重宝する。

(2) 釣り

カラカスは海に近いので、磯釣りや漁村の漁師を雇ってボートでの釣りができる。魚種はタイ、アジの仲間、カニが多い。川釣りは適当な川が近くにないため、オリノコ河やその支流まで行く。魚種はコイの仲間やピラニア、ナマズなどである。湖での釣りもできるが、都市に近いところは汚染されており、また進入路や足場が悪いのであまり勧められない。

用具店は市内の各所にあり、ルアーやリール、竿などはほとんどが輸入品で、良質のものが入手できる。リールなどは日本製が多いがかなり高価であるため、竿、リール、浮き、仕掛けに至るまで日本からの持参が望ましい。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

当国は「ドミノ」が盛んであるが、邦人の中ではマージャンが主であり、その他には囲碁やブリッジなどを楽しむことが多い。カジノは禁じられている。

競馬は非常に人気が高く、バレンシアおよびカラカスで週2回行われている。

シーズンに入ると市内の球場でプロ野球のナイターも楽しめるが、始まる時間帯が日本よりもかなり遅い。

ビリヤードは Billar de Oro (Sabana Grande、TEL:724173) でプレイできる。

(2) レジャーランド、娯楽場、遊園地

遊園地は市内に数カ所あるが、ラス・メルセデスのものが地理的にも利用しやすい。

(3) 芸能興行

代表的なものとして闘牛、フラメンコ・ショーがある。闘牛は Nuevo Circo 闘牛場が市内にあり、入場券は当日入場の際に購入する。フラメンコ・ショーは数軒のレストランで鑑賞することができる。本格的なショーであるが、毎日催されているわけではないのでレストランに電話で直接確認する必要がある。主な店は次のとおりである。

Cafe de Chintas

住 所：Av. Tamanaco, El Rosal

電 話：331086

El Bodegon de Monterrey

住 所：Av. Humboldt, Sabana Grande

電 話：719444

Los Tarantos

住 所：3a Av., Las Acacias

電 話：716128

このほかにもサーカス、芸能ショーなど、多数の興行が行われている。情報の入手

先は新聞（例えばスポーツ芸能紙の「2001」）であることが多い。

10-10 スポーツ

(1) テニス

テニスは邦人女性の間で人気がある。テニスクラブは多いが、主な利用場所は次のとおりである。

Tennis del Este C.A.

住所：San Luis 電話：9874632

会員制であるがコートの時間貸しも行っている。料金は1面1時間単位である。
インターコンチネンタル・タマナコ

ホテルのコートを利用してスクールが開かれており、随時入学できる。

なお、ラケットは当国でも入手可能であるが、持参した方がよい。

(2) 水泳

スイミングプールは多くあり、1年中泳ぐことができる。

街中の各所にスイミングスクールがあり、児童、大人ともに随時入学できる。また、アパートにプールがある場合はそこを利用することが多い。各ホテル（カラカスヒルトン、インターコンチネンタル・タマナコなど）のプールを利用することもでき、その料金は1日単位である。ラグニータ、アナウコなどのゴルフクラブのプールでも泳ぐことが可能である。

利用上の注意点としては特にはないが、目薬は常に用意しておきたい。

水着は各種豊富に売られているが、日本からの持参が望ましい。

カラカス市民にとって海水浴は重要なレクリエーションのひとつで、休日ともなれば大勢の人が近くの海岸へ押し寄せる。そのため休日は常に交通渋滞が激しい。

更衣室、シャワー、駐車場、売店などの設備の整った主要な海水浴場は、マリナシエラトン（Caraballeda）、マリナグランデ（Catia La Mar）、カムリチコ（Macuto）、ロス・カラカス（Los Caracas）などである。いずれもカラカスから車で約1～2時間程度である。

(3) その他のスポーツ、用具、ウエア

ボウリング場は多い。靴、ボールは施設内で貸してくれる。

主なボウリング場は次のとおりである。

Bowling del Prados del Este

住所：Prados del Este

電話：9794046

Bowling Pin Cinco

住所：Centro Comercial de California

電話：2399142

Bowling Florida

住所：Centro Comercial La Florida

電話：742666

当国で人気のあるスポーツはサッカーであり、邦人の間でも盛んである。日本人学校にはサッカー同好会があり、毎週土曜日が練習日となっており、対校試合なども行

っている。成人の場合でも各国の人々でつくるサークルがあり、参加も可能である。なお、用具、ウエアは豊富にある。

空手道場が市内にあり、邦人、ヴェネズエラ人およびそのほかの国の人々が多く習っている。胴着は日本から持参した方がよい。

以上のほかにソフトボール、バスケットボール、卓球、また Parque del Este ではジョギングが盛んである。これらの用具、ウエアはすべて揃えることができる。しかし、バドミントンの羽根、ラケットは当地では入手できない。

(4) スポーツクラブなど

市の東方、車で約 30 分のところにあるマンホテスポーツクラブである。会員権として登録料および年間のメンテナンス費用が必要である。球技用グラウンド、プール、テニスコート、クラブハウスがある。

10-11 子供の遊び

屋外での子供の遊び場は、安全面などから限られた場所になる。各町ごとに、一応の遊び道具が揃った公園や大規模な公園もあるが、主な遊び場はアパート敷地内のブランコ、すべり台などのある小規模な子供広場になることが多い。

公園内に設置してあるすべり台、ブランコ、シーソーなどには子供の体の大きさや運動能力を無視したようなもの、メンテナンスが悪いために傷んでいたりするものもあるので十分な注意が必要である。また、アパート内で遊ばせる場合でも、親の十分な監視が必要である。小学校高学年に達していても、子供 1 人あるいは子供同士の外出は危険なのでさせないことが肝要である。

三輪車、自転車（高品質）は入手可能である。1~2 歳の幼児が遊べるようなプラスチック製の乗り物は、当国製のものが豊富にあるが質が悪い。小さな子供向けのおもちゃ類も同様に、当国製は安価で豊富だが質が悪い。しかし、アメリカ製の「フィッシャープライス」がコンクレサ・ショッピングセンターやフリーポートのマルガリータ島で購入できる。日本人学校の児童の間で流行しているものにファミコンがある。

子供は意外と外に出るチャンスが少ないので、子供向けの本、マンガ、日本のビデオ、手先を使って遊べるもの、狭いところでも体を動かして遊べるもの（卓球、バドミントン）など、子供の成長を見越して十分に用意しておいた方がよい。日本人学校で一輪車の練習ができるが、当地で一輪車の入手は不可能である。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

該当情報無し。

11-2 コンピュータ

該当情報無し。

11-3 美容院・理髪店

邦人がもっとも多く住んでいるロス・パロス・グランデス地区の美容院の一般的な料金は、カット（ショート）が 5,000 ポリバル（1,000 円程度）、パーマが 15,000 ~20,000 ポリバル（3,800~5,000 円程度）である。セントロ地区などではもっと安

く、また高級ホテル内や有名なショッピングセンター内などではもっと高くなる。

ロス・パロス・グランデス地区の理髪店の一般的な価格は、理容・調髪が2,000～2,500（500～600円程度）ポリバルである。美容院と同様にセントロ地区などではもっと安く、また高級ホテル内や有名なショッピングセンター内などではもっと高くなる。なお、当地では一般に洗髪後調髪を行っているが、前もっていえば調髪の後に洗髪してくれる。しかしあまり丁寧ではない。

化粧品および香水は当国製・輸入品ともにさまざまな種類が出回っているが、体質の違いなども考えられるので、日本から使い慣れたものを持参した方がよい。日本製品では資生堂の一シリーズがあり、レブロン、ロレアル、マックスファクター、ニベアなどは当地で製造されている。また、ディオール、シャネル、ヘレナ・ルビスタ、アラミスなどは日本より安価で入手できる。

男性用化粧品も一通りのものが入手可能であるが、ヘアリキッドやヘアクリームなどは市販されていないので必要ならば持参するとよい。

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

カラカスから国外、国内の各地に定期航空便を利用して旅行する際に、すでに航空券を入手していても予約がちゃんと取れているかどうかを前もって必ず再確認することが肝要である。各航空会社はカーニバル、セマナサンタ、クリスマス、新年の各シーズンには、しばしばオーバーブッキングを行い、当日カウンターで搭乗手を拒否され乗り損なう場合があるためである。また、定期便でありながら著しく乗客が少ない場合には、一方的に運航中止にしてしまうことも希にある。南米各国の国際線のほとんどは、各国の国営航空会社によって運航されているが、国によっては予約受付に未だコンピュータを導入していないところもあり、ましてや中小民間航空会社に至ってはなおさらである。

また搭乗手続は、国際線の場合は通常2時間前、国内線の場合は1時間前からである。しかし、旅行シーズンの場合は通常の時よりもさらに1時間ほどの余裕を持ってカウンターの前に並んだ方が無難である。搭乗開始時間が数時間も遅れることもしばしばで、そのうえ搭乗ゲートが突然変更になることもある。また国内線の便が国際線から出たり、その逆の場合もある。

なお当国の場合、国内線でも外国人はときとしてパスポートの提示を求められることがあるので携帯した方がよい。なお、クマナからマルガリータ島へ行くフェリーボートではパスポートの提示が必要である。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

カラカス周辺の1日行程の観光地としてはドイツ系移民の村「コロニア・トバール」、遊覧鉄道のある「ロス・ロケス公園」、海水浴場としてはマイケティア空港からロス・カラカスにかけての海岸と「イゲロツテ海岸」がよい。イゲロツテ海岸の水は濁っていてあまりきれいではないが、グアクコというアサリに似た貝がとれるので潮干狩りにでかける人がいる。

そのほかの主要観光地は次のとおりである。

<マルガリータ島> フリーポートのある海岸リゾートで免税地区となっている。マイケティア空港からジェット機を利用して40分くらいである。2泊3日以上で訪れることが多い。日曜日は閉まっている店が多いので注意すること。ホテルはポーラマルの商店街に歩いて行ける「ページャビスタ（4つ星）」か「マルガリータ・コンコルデ（5つ星、ポーラマルへはタクシーを利用）」を利用する邦人が多い。タクシーをチャーターしての島内観光も楽しい。

<メリダ> アンデス山脈にある山岳リゾートで、ヴェネズエラ最高峰ボリバル山（標高5,007メートル）の頂上近くまで登るロープウェイの出発点である。

<カナイマ> 世界一落差（約1,000メートル）のあるエンジェルの滝がある高原リゾートで3泊4日くらいの日程で訪れる人が多い。アメリカやカナダの観光客に人気があり、3ヵ月以上前に予約する必要がある。宿泊施設、サービスはそれほどよくないが、景観が素晴らしい。

<プエルト・ラクルス> 東部の海岸リゾートである。

<チチリビッチ> 無数の小島から成る海岸リゾートである。

<マラカイボ> 油田やグアヒロ族の水上市落がある。

<ロス・ロケス> サンゴ礁のなかに無人島が点在しており、美しく、安全である。当国の海岸のなかでは最高といわれている。マイケティア空港からセスナ機を利用して45分、費用は日帰り1人140ドル程度である。

<カリブ海クルージング> 約7日間でフランス領マルチニーク島、プエルトリコ、クラサオなど数ヵ所のカリブ海の島々をめぐる。費用は1人1,000ドル程度からで、出発日が決まっているので早めの予約が必要である。

国内にはAクラスの一流ホテル（プールやナイトクラブなどあらゆる設備を持ち、国際的に通用するホテル）と呼べるものは少なく、しかもそのほとんどがカラカスをはじめとした主要都市のシティホテルであり、リゾートのAクラスのホテルはわずかしかない。比較的設備の整ったBクラスのホテル（Aクラスに比べて設備は多少劣るが快適に過ごせるホテル）は多いが、それらもほとんどがシティホテルであり、リゾート地では限られている。

<カラカス近郊>

Macuto Sheraton (Aクラス・海岸リゾート地)

Melia Caribe (Aクラス・海岸リゾート地)

<バルキシメト市内>

Barquisimeto Hilton (Aクラス)

Internacional

<カビマス市内>

Cabimas Hilton (Bクラス)

<マラカイボ市内>

Intercontinental del Lago (Aクラス)

Hotel Kristoff (Bクラス)

<シウダグァヤナ市内>

Intercontinental Guayana (Aクラス)

<マルガリータ島>

Margarita Concorde (Aクラス・リゾート地)

Hotel Hilton (Aクラス・リゾート地)

Hotel Bella Vista (Aクラス・リゾート地)

<メリダ市内>

Park Hotel (Bクラス・リゾート地)

<プエルト・ラクルス>

Melia Puerto La Cruz (Aクラス・リゾート地)

<バレンシア市内>

Intercontinental Valencia (Aクラス)

当国の土産物としては、次のものがあげられる。

<コーヒー(缶、袋詰め)、チョコレート>

各種ある。品質が良い割りに安い。どこのスーパーでも入手可能である。

<ジャム(瓶詰)>

珍しい南国産の果物のジャムがある。

<ロン(地酒のラム酒)>

普通のものから50年もの(Bicentenario)まで各種あり値段も様々である。日本では珍しいので評判はよい。

民芸品は各種あり、コロニア・トバールの民芸品店街には豊富にある。

El Porton de Plata

住 所：Paseo Las Mercedes La Cuadra Local 5

電 話：929670

Hanssi

住 所：Calle Bolivar No.12, El Hatillo

電 話：9635577

備 考：カラカスでいちばん大きな民芸品店。現金、小切手で買う場合、申し出れば5%程度割引してくれる。

Arte Murano

住 所：Calle La Trinidad No.61, Urb anizacion Potrerito

電 話：032720312

備 考：ガラス細工、食器を製造販売している。

<ポロシャツ、化粧品>

マルガリータ島やカラカス市内では、世界的にも有名なブランド品が売られている。しかし、オリジナルは数も少なく高価であるが、当地製のものはそれなりの値段で入手できる。

<金細工>

「オーロコチャーノ」といわれる砂金細工がある。18Kのペンダントヘッドなどは珍しいデザインである。純金のオーロコチャーノは、シウダボリバルの宝石店で入手可能である。単価は18Kとほぼ同じである。

金そのものの単価は日本に比べて安いわけではない。貴金属類は信頼できる店で購入することが望ましい。

Comercial Darwin

住 所：Edif. La Francia Piso 7, Oficina 701, Esq. Las Monjas

電 話：814822,823610

Joyeria "Gong"

住 所：Calle Real de Sabana Grande

<男性用の革靴>

Miami

住 所：Edif. La Ceiba, Av. Universidad, San Francisco, a Sociedad, No.8

備 考：アメリカ風の革靴を扱っている。

Tony

住 所：Edif. Union-Local 1, Calle Real de Sabana Grande

電 話：729160

備 考：イタリア風の靴を扱っている。

<水彩画>

ヴェネズエラの代表的な地方、踊りなどをモチーフにした水彩画がある。画家の「ウィリー・ナーバ」(電話：727546)に直接交渉すると市価の半額以下で入手できる。カラカスの代表的な景観のアピラ山の油絵は「L. Molino」の作品が価格としては手頃である。

CCCTなどの店と街の店では値段に差があるので、注意すること。

El Rincon de Paris

住 所：Edif. Teatro Altamira, Local 8, Av. Avila

電 話：328052

12-3 旅行

(1) 自動車

外出先(カラカス市内またはその近郊辺り)で故障した場合には、なるべく早くレッカー車を呼び修理工場へ運ぶことが望ましい。車を無人で放置しておくとも車ごと盗まれる、もしくはバラバラに分解され、あとにはシャーシーしか残されていないという状況になり兼ねない。カラカスからはるかに離れた遠隔地か僻地で車が故障した場合には、レッカー車で運搬するには多額の費用がかかるので、最寄りの町村の修理工場へ運び、修理が終わった時点で引き取りに行くのがよい。

故障車の運搬を請負う会社は全国に多数あるので、あらかじめ数社の電話番号をメモしておき、最寄りの会社に連絡するとよい。また故障車が多いため、多くのレッカー車が朝から晩まで道路を巡回しているので、通りすがりのレッカー車を呼びとめるのも容易である。このため車での外出時には、レッカー代として5,000~1万ボリバル前後の現金を常に用意しておく方が無難である。

なお、常に目的地の方向を十二分に確認しながら、万全の注意で運転することが大切である。

また、ひとつの集落から次の町や村まで何十キロも無人の原野を走る場合も多いの

で、各地のガソリンスタンドで、なるべくまめにガソリンやオイル、水などの補給をしておく必要がある。自動車での旅行はできるだけ2台以上で行くことが望ましく、可能であればヴェネズエラ人に同伴してもらう方がよい。

カラカス～マラカイ間的高速道路は2車線で中央分離帯もあるが、かなり急なカーブが多く、速度は80キロに制限されている。しかし、夜間や霧のかかった時でもここを100～120キロ程度で走行しており、運転技術が相当熟練していないとなかなか走れない。旅行の行程には十分な余裕をみて、夜間はなるべく走らなくてもいいように計画すべきである。

主要幹線沿いの町の出入口や州境などには必ず「アルカバラ」と呼ばれる検問所が設置されている。車は必ずここで一時停止し、場合によっては警官の求めに応じて、免許証や身分証明書などの必要書類を提示しなければならない。アルカバラは犯罪者の逃亡、密出入国者のチェック、麻薬の運搬の摘発などにあるが、一般旅行者にとっては、治安上からも確実な交通情報を得られることから便利な存在である。

学校、病院、警察、軍隊などの公共施設の前には、道路を横断して低い盛り土（通称「Policia Acostado」といい、寝そべった警官の意味）があり、ここは徐行して通過することになっている。そこを減速せずに通過するのは大変危険である。

(2) バス

国内各地への長距離バスは、市の南西部にある Turmedito (Via Las Mayas) から各地の主要都市に向けて運行しており、低料金のため利用率は高い。しかし、夜行バスの利用は防犯上あまり勧められない。

定期バスの会社は存在していないが、観光会社・旅行代理店などが小型から大型まで多くの観光バスを走らせており、国内のグループ団体旅行などに利用するには楽しく快適である。

(3) 鉄道

鉄道の運行は、国内西部のプエルト・カベージョ～バルキシメト間の単線170キロと、東部ポリバル州のプエルト・オルダスと奥地の鉱山を結ぶ鉱石運搬鉄道のみである。

(4) 航空機

当国は産油国であることから燃料代が安いいため、国内線の航空運賃は比較的安く設定されている。しかし国際線は、国際協定により外国各社と同等の料金である。

国内線は大型ジェット機によって広大な国土をくまなく結んでおり、国内主要都市のほとんどがカラカスと連絡している。

航空路の開設されていない地域への旅行や地方都市への急な旅行などには、Aerotaxi のチャーター便が利用できる。カラカス市内の La Carlota 空港は、空軍、政府の各省庁および民間飛行クラブなどが共同で使用しており、主に小型機の発着に利用されている。ここの民間会社や個人に依頼すれば4～5人乗りのセスナ機、7～8人乗りの双発機、またはヘリコプターなどで、いついかなる時でも好きなところへの旅行が可能である。最低契約時間は1日2時間であるが、料金は高い。

予約先：Aeroejecutivos

電話：328234, 324601 (内線 73, 55, 79)

12-4 旅行代理店

カラカス市内はもちろんのこと、全国各主要都市に旅行代理店は多数あるので、航空券やホテルなどの予約は常に可能である。前任者に聞いたり、自分で選ぶなりして信用のおける旅行代理店を利用する必要がある。

邦人が多く利用している旅行代理店は次のとおりである。特に、トランスアメリカのエレナ・カルボさんは、何かトラブルがあった時にきちんと対応してくれることで評判がよい。なお、旅行先でトラブルがあった時のために担当者の自宅の電話番号を覚えてもらっておくとよい。

Transamerica

所在地：Edif. Atlantic Piso 7, Av. Andres Bello de Los Palos Grandes

電話：2836633, 2837644, 2839311

F A X：2839855

担当者：Elena Calvo

Sankei Travel de Venezuela

所在地：Edif. Cavendes Piso 5, Oficina 512, Av. Fco. de Miranda,
Los Palos Grandes

電話：2844001, 2848910

F A X：2843489

担当者：千葉さよ

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

ホテルなどの予約は、直接でも旅行代理店を通してでもよいが、トラブルを未然に防ぐためにも旅行代理店から予約してもらい、その証明書を持参した方が確実である。経費は通常ボリバルで支払う。また、中流以上のホテルであればカードや銀行小切手での支払いも可能である。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

暴動などの緊急事態に対応するため、日本大使館は日本人会、二水会を中心に緊急連絡網を整備している。JICA 専門家の場合は、ただちに大使館の担当者に連絡して指示を仰ぐことが必要である。

また、非常時の場合、カラカスからの陸路での脱出はむずかしいため、暫くの間はアパートにとどまることになる。そのためにも常日頃からミネラルウォーター、米、みそ、しょうゆ、缶詰などの基本的な食料品の備蓄（1～2ヵ月分）およびUSドルのストック（3千ドル程度）、ガソリンの予備（最低でもタンクの2分の1以上）などには気を使う必要がある。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況など

経済の悪化に伴い治安状態は極めて悪いため、特別な用事がない限り夜間の外出は

極力控えた方がよい。カラカスで発生する殺人事件が週末だけで20～30件に達することも珍しくない。特に、クリスマスから新年にかけては飲酒運転による交通事故、喧嘩、銃の発砲、強盗などによる死者が100人を超す。

市内の犯罪では組織的に銀行や会社を襲う強盗団、個人による強盗、空き巣、ひったくりおよび車泥棒などがあげられる。強盗団と警官隊との銃撃戦はしばしば発生しており、白バイやパトロールカーは機関銃を持って常時市内を巡回している。

左翼ゲリラなどによるテロ事件は比較的少ない。活動は政府軍に抑えられて極めて低調であるが、コロンビアやブラジルとの国境付近には、バンデーラ・ロッハ（赤い旗）と呼ばれるゲリラ・グループの存在が知られている。むしろ危険なのは、これらの国境沿いに潜伏する麻薬の生産者と、それをコントロールしているマフィア・グループである。特にコロンビア国境付近では警官とこれらのグループとの間で頻繁に銃撃戦が行われており、この付近にはあまり近づかない方が賢明である。

(2) 防犯対策

カラカス周辺には「ランチョ」と呼ばれるスラムが形成されている。この地域にはたとえ車であっても単独では入り込まない方がよい。カラカスでは昼間でもこれらスラムには出入りしない方がよく、まして夜間のひとり歩きは男性でも注意が必要である。夜間のひとり歩きは危険であるため、なるべく車を利用する方がよい。

「セントロ」と呼ばれるカラカス中心部のダウンタウンには、高級店から安売り店まで多くの商店が密集し、またコロニアルスタイルの美しい建物も多い。散歩をするには楽しい場所ではあるが、たとえ昼間といえども十分な注意が必要である。特に女性は狙われやすいので、イヤリング、ネックレスなどの貴金属類、それにハンドバッグなどの類はあまり高価なものを身につけて行かないことが賢明である。

最近では住宅地のロス・パロス・グランデス地区一帯でもひったくり、強盗が続発し、邦人も被害にあっている。

被害を最小限にするためにも大金を持ち歩かないことが肝要であり、主な支払いは銀行のパーソナルチェックかアメックスなどのカードで行うように習慣づけた方がよい。これは邦人ばかりでなく、ほとんどのヴェネズエラ人が実行している。

車の盗難防止装置は二重、三重に必ずつけるべきである。さらにアパートでは、玄関と勝手口には鉄格子の二重ドアやマルチロック錠が絶対に必要であり、もし入居時についていない場合には、家主に申し入れてつけてもらった方が安全である。ドアの鍵は複数とし、外出にあたっては戸締まりを厳重にしておく必要がある。また、自分のアパートであっても、エレベーターに見知らぬ人と2人だけで乗るのは注意を要する。しばしばエレベーターの中での被害が発生している。

長期の旅行にでかける場合は、家主や信頼できる隣人および管理人に留守にする旨を知らせておき、注意を払ってもらう方がよい。意識的に玄関や室内の電灯やラジオをつけたままにして旅行に出掛ける人もいる。

もっとも犯罪の多発するのはクリスマスシーズンである。この時期の行動には昼夜を問わず、十分すぎるほどの注意を払った方がよい。

(3) 被害時の心得

当地では拳銃などの入手が比較的簡単で且つ安価であるため、プロの犯罪者はまず

拳銃を持っていると考えた方がよい。襲われた場合には無駄な抵抗はしない方が無難である。万一の場合に備えて、相手が納得する程度の現金を常に身につけておいた方がよい。

泥棒や強盗に遭った場合には直ちに司法警察（電話：160）へ電話すること。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況など

カラカスでは、豪雨のたびに市内道路の各所が浸水する以外には、特に風水害や地震などの発生はあまりない。火災はときどきあるが日本に比べて発生件数は多くない。当地では暖房機器をほとんど使用しないことと、建築物が開放的で機密性に富んでいないことからガス漏れなどによる火災発生の可能性が低いことなどが考えられる。

屋内配線が古くなって焼けていることがあるが、コンクリートやブロックなどのなかに埋設されているために火災には至らない。また、風通しがよいので、多少ガスが漏れたとしても爆発することはない。

(2) 防災対策

万一の火災などに備えて消火器などを設置し、耐久消費財などには保険をかけておくことが望ましい。また、非常時に備えて常に食料や水、ガソリンを確保しておき、ドルやポリバルなどの現金もある程度用意しておくことが望ましい。特にパスポートなどの重要書類は1ヵ所にまとめ、コピーを別の場所に保管しておくことよい。

(3) 被災時の心得

火災の時は消防署（電話：169）に連絡する。いかなる場合でも大使館や保険会社などに早急に連絡する。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

一般に入国審査カウンターのところまで大使館員または JICA 専門家などが出迎えにきてくれる。JICA 専門家に発行される身分証明書（カルネ）は外交官の証明書とほぼ同じであり、空港の儀典局の受付に話をすればロビーの中まで入ることが可能である。この場合、きちんとした服装（ネクタイ着用）などで行くことを勧める。

(2) 入国手続書類

機内で配られるカードには「観光カード」と「入国カード」の2種類の時があるが、JICA 専門家の場合は既にビザを取得しているので、入国カードの方へにスペイン語で記入する。動植物検疫証明書などは、日本から持ってきたものをそのまま提出すればよい。当国固有の記入上の留意点は特にはない。

(3) 入国審査

大使館員、JICA 専門家が同伴するので問題はない。

(4) 税関検査

一般に赴任時は大使館員がアテンドしてくれる。

(5) 空港内での留意点

置き引きは当然だがひったくりにも注意を要する。ほんの少しの油断で現金や航空券のみならず、パスポートまで持って行かれることもある。

(6) 空港からの主な交通手段

タクシーが一般的である。空港からカラカス市内まではタクシーを利用して45分～1時間程度かかる。赴任時には、大使館またはJICA専門家の車でホテルまで送ってもらえる。ただ、車の手配を考慮し、携行する荷物の大きさや個数（通常1人2～3個程度。数が多いのはあまり好ましくない。）などをJICAを通じて大使館またはJICA専門家に連絡しておくこと。

(7) その他の留意点

外貨はヴェネズエラ国内に入ってから交換した方がよい。ニューヨークのケネディ空港での交換レートはかなり不利である。空港で両替する場合は100～200ドルが普通である。

赴任時のホテルの予約は大使館が行ってくれる。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

国営のピアサ航空（VA）を利用する場合、前日にCCCTのオフィスで荷物をチェックインできるので便利である。その際に航空券およびパスポートを持参する。荷物は開けられて検査される。

(2) 出国手続上の留意点

ビザは6ヵ月ないし1年毎に更新するので、再入国の際に問題がないようにしておく。また、一時帰国の際には所属先の長に依頼し、税関長宛ての文書（簡単な職務の説明と迅速な通関をお願いしたい旨を記したもの）を作成してもらい、それを持参すると通過しやすい。

マイケティア空港からアメリカまでは、1人当たりの荷物は20キロ（ファーストクラスは30キロまで）と制限されているので注意を要する。超過料金は高いため、重いものは一旦機内に持ち込み、アメリカの空港で入れ替えるという方法もある。

14-3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

帰国前にビザが切れないように注意する。予防接種証明は必要ない。

(2) 車の処分

邦人で買い手があれば比較的好条件で譲渡しやすいが、中古車販売店が多数あり、その場で現金で引き取ってくれるので便利である。しかし買い取り価格は若干安い。

売却手続は、中古車店に売る場合はすべてやってくれるので問題ない。個人同士の場合は、売買契約書を登記所で登記し、自動車登録手続を行う。これには少し時間と労力を要する。具体的な方法は、経験者か職場の弁護士に聞くとよい。

また、ヴェネズエラ人は邦人が車を丁寧に扱うことを知っていて購入を申し出る人も多い。しかし、代金をなかなか支払ってくれず、帰国日が押し迫ってくるなどということも考えられるため、十分に検討する必要がある。

(3) 家財道具の処分

当国で家具などを処分するには古道具屋に売る方法、オークション（一般に邦人の知り合いを呼ぶ）による方法、知人に譲るなどの方法があるが、滞在中に最新の情報に耳を傾け、最適な方法を選ぶようにすべきである。原則的には、日本に持って帰れないような家具はあまり買わない方がよい。

日本の船会社を利用すると費用が高くつくので、当地の運送会社に依頼する方がよい。日本大使館、日本人学校、JICA 関係者は次の運送会社を利用している。

Venezuelan International Packers C.A.

所在地：Edif. La Colonia Piso 4, Av. Jalisco, Las Mercedes

電話：7517032, 7528635 担当者：Sonia Reay

事前に船会社に連絡し、梱包に必要なもの（二重構造の丈夫な段ボール箱や発泡スチロール、テープなど）を持ってきてもらう。ピアノや大きな絵など、特別なものの梱包は運送会社に依頼するしかないが、その他の物の梱包は自分で行う方がよい。

保険はかけておいた方がよい。運送会社でも取り扱っているが、邦人の多くは当地の住友海上、東京海上に加入している。保険料は保証金の1%程度である。

通関に関しては、事前に大使館に於いて税関宛ての手紙を作成してもらうとよい。

(4) 住宅の明け渡し

一般に家主へは明け渡す2~3ヵ月前に連絡することになっている。住宅を明け渡す際の内壁のペンキ塗り替えは、借り手の負担で行うことになっている。契約書には、借りた時と同じ状態で返すと記してあるはずなので確認を要する。

(5) 外貨持出し規制

外貨持ち出し規制は特にない。しかし、現地通貨でドルを買うには、通常の場合1日に5,000ドルまでという制限がある。帰国に際して現地通貨の処分に困るということをよく耳にする。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

ラ・グアイラ港に着いた日本からの船荷は、大使館側で手配してくれた業者によってアパートまで運ばれる。チップは1人当たり2,000ボリバル（約500円）程度を支払う。日本から荷物が到着するまでに通常1~2ヵ月かかる。料金は荷物の大きさにより異なるが、後日大使館の担当者に支払う。

(2) 輸入手続

免税申請を行うには船荷証券（B/L）の原本が必要である。日本から船荷を送り次第、直ちにB/LをOCSかDHLで日本大使館の担当者宛てに発送することが望ましい。しかし、申請を受理してもらうには、当国の官報に技術協力専門家として掲載されなければならない。1~2ヵ月の期間が必要である。また、倉庫料が非常に高いため（1ヵ月で荷物の値段の10%くらい）時期を見計らって送る必要がある。場合によっては税金を支払った方が安いこともあるが、輸入禁止品目などの関係から正式な免税申

請による方が安全である。

なお、荷物の到着後2ヵ月を経ても引き取らない場合には競売に付される。相手国の手続の遅れが原因であっても、誰も責任は取ってくれないので、自らいろいろ働きかける必要がある。

アナカンは料金が高いうえに引き取るのに時間を要する。超過料金を支払ってでも手荷物とする方が安い。

荷物のなかに食料品や医薬品などが含まれていても、個人の消費量程度なら問題はない。ただし、ほかの荷物と別に米などを単独に送ると、問題が発生するので注意すること。

(3) 輸入荷物の受取り港

船便の場合、輸入荷物の受取り港は、ラ・グアイラ港 (Puerto de La Guaira) である。郵便小包みの場合は郵便税関に到着する。

(4) 家財道具の購入

該当情報無し。

15-2 自動車

(1) 一般状況

輸入税がきわめて高額であり (実質 500%といわれている)、6気筒を超えるエンジンを搭載している車の輸入は禁止されている。

外交官や JICA 専門家の場合、輸入してから3年以内に売却すると輸入税を支払わなければならない。

当地ではノックダウン方式により GM、フォード、トヨタ、ルノー、フィアットなどの自動車を生産している。トヨタ製では「ランドクルーザー」のデラックス・タイプと「カローラ」の1,600ccがある。ランドクルーザーは、オートマチックのものが諸経費込みで約600万円程度、カローラは新車で約240万円で、いずれも人気が高い。そのほかイズズの Caribe (4WD) や三菱のバンも評判が高い。フォードでは大型の「コンキスタドール」(日本では「リンカーン・コンチネンタル」と、2ドアのスポーツカータイプの「シェラ」がある。このほか、ルノー、フィアットは小型車(2,000cc程度以下)を売っている。

中古車は種類が多く、選定眼があって機械に強ければ一考の余地がある。GMの高級車「カプリス・クラシック」、中型大衆車「マリブ」(センチュリーの先代)、またフォードの「ムスタング」(シェラの前代)、あるいはメルセデスの「ベンツ」などが多い。ベンツは高価なものから安価なものまで様々なタイプがある。

ただし、当地で生産されていないものについては、部品調達の際に問題が生じるので、帰国する邦人から譲り受ける方法が最も安心である。

(2) 輸入手続

輸入に際しては多くの手続きを要し、輸送中の安全面および経済面に於いてもあまりメリットは無いようである。日本車の購入を希望している場合、当国での販売価格の方が日本に比べて割高であるが、多くの面倒を避けることができ、帰国時に売却する際にも価値があまり下がらないというようなメリットがある。

(3) 任国での購入

邦人から購入する場合でも、その都度きちんと話し合い、不備がある場合には価格に反映させるなどした方がよい。大使館員から購入する場合には、外交官ナンバーの返還手続や輸入車の場合には免税手続が長引くことがあるので注意する。また、中古車を個人で売買する場合は、登記所で売買契約書の登記を行う必要がある。車の登録は代理業者に依頼する。中古車はナンバーを取得するまでに3週間以上必要とするが、新車の場合は仮の運転許可証をすぐ得ることができ、ナンバーなしで運転できる。

ディーラーから購入する場合には、それぞれのディーラーによって価格がまちまちであるため、何件か比較検討してみるとよい。購入にかかる手続はディーラー側で行ってくれる。決済は小切手の一括払いが簡便である。

(4) 自動車登録

個人で売買した場合に、手続を依頼できる代理業者には次のようなところがある。

Rossini Altamira C.A.

住 所：Edif. Humboldt, Local B, Plaza Sur Altamira

電 話：2844712

また代理業者に依頼しなくても、自分で手続をすることができるので、職場の当地の人に手伝ってもらうなどして処理した方がよい。

(5) 免許証取得

国際免許証は一応有効であるが、警官によっては通用しないこともある。国際免許証の有効期限は1年間のみなので、むしろ当国で国内免許を取得する方がよい。ただし、国際免許証としては交付されないので注意を要する。

また、日本国内用の免許証があれば、大使館から必要書類を入手し申請することによって、当国の乗用車用の免許証(有効期限5年)を無試験で得ることができる。(パルケ・セントラル東塔42階の運輸通信省のオフィスで発行)

なお、JICA 専門家には「セドラ」という身分証明書が与えられないので、試験を受けて免許を取得することはできない。

(6) 保険、税金

自動車保険は、対人・対物はそれほど高くないが、盗難保険が車の評価価格の10%程度(1年間)と非常に高い。これらは、自分の必要に応じて組み合わせられる。また、保険会社によって、同一内容の保険でもかけ金が10%程度の差があることがあるので、ヴェネズエラ人の知り合いなどに聞いて、信用できそうな会社を何社かあたってみるとよい。しかし、実際に問題があった場合を考えると、日本の保険会社を通じて加入した方がよい。税金は、ラップ(車の登録制度)の際に支払うが、額は安い。

16. 社交

16-1 風俗習慣

日常の簡単な挨拶習慣は徹底している。商店などに入った時でも、用件の前にまず「おはよう」や「こんにちは」と挨拶することが習慣となっている。また、皆子供好きで、まったく知らない子供にでもすれ違いざまに頭髪をさわったり、キスしたり、

抱きしめたりすることも多い。

ヴェネズエラの人々は社交的であり、誕生日や結婚、またクリスマスや新年などに大勢集まることが多い。これらのパーティは深夜にまで及ぶこともある。またプレゼントをする機会も非常に多い。

結婚式は、教会で行われる式から夜の披露宴まで招待される場合と、披露宴のみに招待される場合とがある。招待された場合は、出席するか否かにかかわらず、簡単なお祝いの手紙とお祝い金を用意する。しかし、披露宴会場が危険な地区（ランチョと呼ばれるスラム街付近など）にある場合には、治安の面から考えても、欠席する方が無難である。時間帯が夜の場合はなおさらである。出席する場合には、何らかのプレゼントを持参するようにする。この場合日本的なものが喜ばれるようである。

葬式は、親しさの度合いによって出席するか否かを定める。一般には市内の葬儀屋（Funeraria）で葬儀が行われ、それから墓地に向かう。よほどの場合以外、墓地まで行く必要はない。葬儀に出席するか否かにかかわらず、簡単な手紙と香典を用意する、もしくは葬儀屋へ花輪を届けるようにする。

当国では、特に全国的な休日になるわけではないが、各職業別にその職種の人に感謝する日がある。銀行員の日、警官の日、公務員の日、技術者の日、秘書の日などいろいろな記念日がある。特に「秘書の日」には職場のグループまたは個人で、自分達の秘書にプレゼントをする習慣があり、オフィス内でささやかなパーティが開かれる。さらに彼女達の誕生日も職場内で祝うなど、女性はたいへん大切にされている。男性スタッフの誕生会もあるが、大抵の場合が合同誕生会で、午後から職場内で行われることが多い。いずれの場合も会費制である。一般に、日常生活の上でも、レディーファーストが守られており、エレベーターや交通機関での乗り降り、商店やアパートなどの出入りの際は、必ず女性を優先させる。

年少の子供の誕生会も非常に盛んに行われている。あまり親しい間柄ではなくても、同じアパートの住人というだけで招待されたりする。この場合、遠慮する必要はないが、簡単なプレゼントを用意すること。幼稚園などでも誕生会はよく行われるが、その時もプレゼントが必要である。

クリスマスは1年の中で最大の行事であり、ヴェネズエラ人の友人、知人間では精一杯のプレゼント準備し、それらの交換が行われる。これに先立って、日本から手頃な民芸品などをまとめて準備しておくも重宝する。このプレゼントの交換とは別にこのシーズンに、日頃特にお世話になっている人に気持ち程度の現金を、「お年玉」のように小さな袋に入れてプレゼントするのが一般的な習慣である。対象者としては事務所の運転手、作業員、アパートの守衛、家政婦／夫、管理人、水の配達人、郵便配達人、ガス集金人、いきつけのガソリンスタンドの従業員などで、これを忘れるとその後のサービスに支障をきたす場合もあるので注意が必要である。このうち特に「アパートの管理人」には、自宅の隣近所の人ともよく相談して、十分な金額を渡す必要がある。

当地では、日本からの土産物などをプレゼントする機会が結構多い。ただ職場関係者へのプレゼントは着任早々ではなく、しばらく一緒に仕事をした後に「お世話になったので」などと理由をはっきりと告げてあげる方がよい。また、事前に前任者など

に、重要な職場関係者の数について聞いておくとよい。

人を呼ぶのに唇を使った破裂音で「プスップスッ」というのをよく使うが、上品な行為ではないので真似しない方がよい。

16-2 パーティーでの留意点

パーティーに招待された場合には、都合がつく限り出席するようにすること。遠慮から辞退などしないこと。正式なパーティーには男性はダークスーツが無難であるが、女性はロングドレスなどは特に必要ない。

16-3 来客時の留意点

一般的に客人を招待した場合、客人は約束の時間よりかなり遅れて来る場合が多く、それに準じて帰る時間も遅くなる。深夜、明け方にまで及ぶ場合がある。

また、誕生日や出産などに際しては、前もって何の連絡が無いままの状態、突然大勢押しかけてくることがある。特に出産時には、日本のように数日待つのではなく、出産翌日に病院へ押しかけてくることがあるので注意が必要である。

こちらの都合や要求は、はっきりと言葉にして表現するのが基本である。

食事に招待する時は次のような点に注意する。ロン（ラム酒）とリモン（小型のレモン）、それに十二分な量の氷を必ず用意すること。その他の酒類も豊富に用意すること。普通のロンは安価なものなので、できるだけ高級品を用意することが望ましい。また、女性や子供のために清涼飲料も忘れずに用意すること。

日本料理では、スキヤキや天ぷら（特にエビなど）の評判がよい。刺し身や寿司といった「生の魚介類」は好き嫌いがあるので注意が必要である。

16-4 訪問時の留意点

約束の時間から 30 分以内の間に先方へ到着すること。手土産はある方が望ましく、家族や子供へのものが多い。手土産は「花」が一般的であるが、日本の民芸品など（扇子、壁かけ用紙人形、浮世絵、色紙など）は特に喜ばれる。ワイン、ウイスキーなどでもよい。

16-5 禁止されている言動

特に禁止されている言動はない。ただし、周りにヴェネズエラ人がいる場合、「ラントチョ」という言葉は、邦人同士の会話の中でも口にしない方が賢明である。

17. 任国官公庁

大統領府と 8 つの補助機関、6 人の国務大臣および 16 の省がある。勤務時間は省庁によって多少異なるが、一般に 8:00～12:30、14:00～16:00 の前後である。

大統領府 (Presidencia de la Republica)

住 所：Palacio de Miraflores, Av. Urdaneta

電 話：810811～30, 819131～49

改革審議会 (Comision Presidencial para la Reforma del Estado)

住 所：Torre Oeste Piso 38, Parque Central

電 話：5746568

企画庁 (Oficina Central de Coordinacion y Planificacion de la Presidencia)

la Republica)

住 所：Torre Oeste Pisos 23, 24, 25 y 26(RR.PP.), Parque Central
電 話：5077611 (Central), 5077935 (RR.PP.)

統計情報庁 (Oficina Central de Estadísticas e Informáticas)

住 所：Edif. Fundacion La Salle, Mariperez, Av. Boyaca
電 話：7821133、7821212、7821167、7821001、7821201、7821389
テレックス：21241

情報庁 (Oficina Central de Información)

住 所：Edifs. Caroata y Tacagua, P.H. y Nivel Oficina 1, Parque Central
電 話：572-110、572-2001、572-2866、572-3020

人事庁 (Oficina Central de Personal)

住 所：Torre Oeste Pisos 28 y 29, Nucleo 3, Parque Central
電 話：571-1111 (Central)

予算庁 (Oficina Central de Presupuesto)

電 話：572-0211

公共物維持管理庁 (Oficina Central de la Fiscalía General de Mantenimiento)

住 所：Torre Oeste Piso 34, Nucleo 3, Parque Central
電 話：574-6975, 574-7435, 574-7931, 574-8164, 574-8457, 574-9191,
574-9242, 574-9332, 574-9419, 574-9486

検察総庁 (Procuraduría General de la Republica)

住 所：Santa Monica, Av. Lazo Maru, cruce con Av. Los Ilustres (al lado
de Almacenes IPSFA)
電 話：6612666 (Serial 10 Lineas)

ガイアナ公団担当大臣 (Ministro de Estado Corporación Venezolana de Guyana)

住 所：Palacio de Miraflores, Av. Urdan
電 話：810811~30, 819131~49

国際経済担当大臣 (Ministro de Estado para Asuntos Economicos
Internacionales)

住 所：Palacio de Miraflores, Av. Urdaneta
電 話：810811~30, 819131~39

科学技術担当大臣 (Ministro de Estado para la Ciencia y la Tecnología)

住 所：Palacio de Miraflores, Edif. Administrativo Piso 3, Oficina 158,
Av. Urdaneta
電 話：810811~30, 819131~49

企画庁長官 (Ministro de Estado para la Coordinación y Planificación de la
Presidencia de la Republica)

住 所：Torre Oeste Pisos 23, 24, 25 y 26, Parque Central.
電 話：5730957, 5077611

文化担当大臣 (Ministro de Estado para la Cultura)

住 所：Palacio de Miraflores, Edif. Administrativo Piso 3, Av. Urdaneta

電話：810811～30, 919131～49, 831447
ヴェネズエラ投資基金総裁 (Ministro de Estado y Presidente del Fondo de In-
versiones de Venezuela)
住所：Torre Financiera del Banco Central de Venezuela Piso 20, Av. Ur-
daneta, Esq. Santa Capilla
電話：832044
大統領事務総省 (Ministerio de la Secretaria de la Presidencia de la Repub-
lica)
住所：Palacio de Miraflores, Av. Urdaneta
電話：810811～30, 819131～49
農牧省 (Ministerio de Agricultura y Cria)
住所：Torre Este Pisos 1 al 20, Parque Central
電話：5090111 (Central)
テレックス：21483MACRA, 28133MACDR
文部省 (Ministerio de Educacion)
住所：Edif. Sede del M.E., Esq. de Salas, Altagracia
電話：5625444, 5626555
エネルギー鉱山省 (Ministerio de Energia y Minas)
住所：Torre Oeste, Av. Lecuna, Parque Central
電話：5075011 (Central)
勸業省 (Ministerio de Fomento)
住所：Torre Sur Pisos 4, 5, 6y7, Centro Simon Bolivar
電話：482559, 419341～9
大蔵省 (Ministerio de Hacienda)
住所：Edif. Norte, Centro Simon Bolivar
電話：419811～24, 419406
テレックス：28391
法務省 (Ministerio de Justicia)
住所：Torre Norte Pisos 17 al 30, Centro Simon Bolivar
電話：4831960、4831218、4831023、4834074、4831651
国防省 (Ministerio de la Defensa)
住所：El Valle, Fuerte Tiuna
電話：6622880
都市開発省 (Ministerio de Desarrollo Urbano,)
住所：Edif. Ban-Ven, Av. Lecuna, Reducto a Miranda
電話：419711～25
青少年省 (Ministerio de la Juventud,)
住所：Torre Oeste Piso 41, Parque Central
電話：5747111 (Central)、5748111 (10 Lineas)
環境天然資源省 (Ministerio del Ambiente y de los Recursos Naturales Renov

ables)

住 所：Torre Sur, Centro Simon Bolivar

電 話：4081111,4081555

労働省 (Ministerio del Trabajo)

住 所：Edif. Sur Piso 5, Centro Simon Bolivar

電 話：4832933,4834211

外務省 (Ministerio de Relaciones Exteriores)

住 所：Esq. Principal (frente a Plaza Bolivar)

電 話：818521～9

内務省 (Ministerio de Relaciones Interiores)

住 所：Av. Urdaneta, Esq. Carmelitas

電 話：818851～9

厚生省 (Ministerio de Sanidad y Asistencia Social)

住 所：Edif. Sur, Centro Simon Bolivar

電 話：4833533

運輸通信省 (Ministerio de Transporte y Comunicaciones)

住 所：Torre Este, Parque Central

電 話：5091111 (Central)

18. 在外日本関係機関など

在ヴェネズエラ日本大使館

住 所：Edificio de Bancaracas, piso 12, Av. San Felipe con 2a Transversal,
La Castellana, Caracas

電 話：2618333

事務時間：月～金曜日の 9:00～12:00、14:00～17:00

日本人会事務所

住 所：Edif. La Galeria, Oficina 12-D, Av. Norte-Sur 5, entre las Esq.
Salvador de Leon y Coliseo, Caracas

電 話：5419212,5419812

事務時間：月～木曜日の 14:00～17:00

ジェットロ・カラカス事務所

住 所：Multicentro Empresarial del Este, Edif. Libertador, Nucleo "A",
Piso 8, Oficina A-81, Av.Libertador, Chacao (Apartado 61328)

電 話：332349、326647

事務時間：月～金曜日の 8:00～12:00、14:00～17:00

19. 地方都市

該当情報なし。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する専門家などの JICA 関係者が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、とくに生活情報を提供するものです。

専門家などの JICA 関係者は、技術協力協定などの国際約束に基づいて派遣されておりますので赴任国で課せられる税金が免除されることがあります。任国情報はこうした関係者を対象として作成されておりますので、あらかじめご了解願います。

-----アジア地域-----

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア (ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴィエトナム
19. モンゴル

-----中近東地域-----

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、ドバイ)
16. イエメン (サナア)

-----太平洋地域-----

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. パラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア
9. トンガ
10. マーシャル諸島

-----欧州地域-----

1. カザフスタン
2. キルギス
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー
8. ブルガリア
9. チェッコ
10. ルーマニア

-----アフリカ地域-----

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. ギニア・ビサオ
11. コートジボアール
12. ケニア
13. リベリア
14. マダガスカル (アンタナナリボ、アンチラナナ)
15. マラウイ
16. モーリシャス
17. モザンビーク
18. ニジェール
19. ナイジェリア
20. ルワンダ
21. サントメ・プリンシペ
22. セネガル
23. セイシェル
24. ソマリア
25. タンザニア
26. トーゴ
27. ザイール
28. ザンビア
29. ジンバブエ
30. スワジランド
31. ボツワナ
32. エリトリア
33. 南アフリカ
34. ジブティ
35. ウガンダ

-----中南米地域-----

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、
ポルトアレグレ、ベレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダッド・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア
21. ジャマイカ
22. エル・サルヴァドル

「任国情報（ヴェネズエラ）1998年度版」

平成11年3月31日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03)3269-2357

